

平 成 24 年 度

専門科目教育要項

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科
口腔保健工学専攻

ま え が き

この教育要項は、歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻の授業を受ける学生の皆さんに、平成24年度に行われる予定の専門教育科目を示し、それらの授業計画および授業内容の概要を知らせるためのものです。

学生の皆さんが、本学における口腔保健工学専攻教育の内容を把握すると共に、充実した履修が行えるよう本要項を有意義に活用されることを希望します。

平成24年 4 月

歯学部口腔保健学科教育委員会

口腔保健学科

基本的理念

温かく豊かな人間性を有し、口腔保健・福祉の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識および技術をもって広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を育成する。

一般教育目標

口腔保健学科では、次のような一般教育目標の基に教育を行っています。

1. 生命の尊厳と基本的な科学原理・概念を理解し、生命科学の知識を修得する。
2. 基本的人権を尊重し、相手の心情と行動を理解して人と接する能力を身につける。
3. 社会における口腔保健・福祉の果たす役割とその重要性を理解する。
4. 心身の様々な状態を理解し、口腔保健に関する知識および技術を修得する。
5. 科学的探究心と問題解決能力を身につけ、生涯学習への意欲を培う。
6. 保健・医療・福祉等の関連職種と連携して活動できる能力を身につける。
7. 口腔保健の立場から国際貢献ができる能力を修得する。
8. 深い人間理解と医療人としての高い倫理観、豊かな感性を身につける。
9. QOLの向上に関わるものづくりの専門職として、自らの高度な知識と技術を社会に還元する意欲を養う。

口腔保健学科のディプロマポリシー

口腔保健学科では、教養部および各専攻における、基礎から臨床、実践に統合する体系的学習を行い、進級要件（東京医科歯科大学全学共通科目履修規則及び東京医科歯科大学専門科目履修規則）を満たし、卒業までに、所定の単位を修得し、以下の要件を満たしている者に学位を授与する。

1. 幅広い教養と豊かな感性

全学共通科目から専門の臨床・臨地実習に至る全教育課程を通して、口腔保健・医療・福祉領域の専門職に必要とされる幅広い教養ならびに人々の心情と行動を理解できる豊かな感性と高い倫理観を身につけている。

2. 問題提起、解決能力

口腔保健・医療の急速な進歩ならびに口腔保健・医療・福祉への多様なニーズに対応できるよう、科学的根拠に基づいた論理的思考力と、主体的に問題を提起、解決する能力を有している。

3. 国際性

口腔保健・医療・福祉分野における国際貢献への高い関心を有し、国際活動・協力を実践するための基礎力を備えている。

歯科衛生および歯科技工の領域において指導的役割を担えるよう、専門職としての高度な知識と技能を有していることが求められる。また、近年は関連多職種と連携した口腔保健の実践が求められており、チームとしての保健・医療・福祉活動に専門職として参加できる基礎力を修得していることが必須である。

口腔保健工学専攻のカリキュラムポリシー

東京医科歯科大学の教育理念、および歯学部口腔保健学科の教育理念に基づき、口腔保健工学専攻の教育目標をふまえて、ディプロマ・ポリシーを実現するためのカリキュラムの策定方針を以下の通り定める。

1. 全学共通科目の人文・社会科学、専門科目の技術倫理、コミュニケーション論、PBL テュートリアルで行うヘルスプロモーション等の履修を通して、歯科医療人としての倫理観ならびにコミュニケーション能力を育てる。
2. 全学共通科目の自然科学、専門課程の基礎歯科医学を学び、さらに統合力を必要とする卒業研究、再建工学包括臨床実習等の履修を通して、学際的科学の視点と問題提起、解決能力を育成する。
3. 歯科医療の進歩に応じた歯科技工に関する知識と技術を基礎から応用まで段階的に学ぶことにより、最新の情報工学を駆使した歯科技工物製作の理論と実際への理解を深め、新たな技術開発への基礎力を培う。
4. 口腔リハビリテーション工学等の履修を通して、疾患により失われた機能回復を促し、患者の QOL 向上に寄与できる能力を育成するとともに、人々の健康を支援する使命感を養う。
5. 全学共通科目の外国語、専門科目の科学英語等の履修により、国際協力に関心を持ち、海外の文化、社会への理解を深め、国際貢献への姿勢と能力を培う。

歯学部長あいさつ

歯学部長 田 上 順 次

口腔保健学科口腔保健工学専攻では、「造形と製作加工の技術を科学的に裏付けされた匠の技として発展させ、人々の健康に寄与する」ことを謳っています。口腔保健工学専攻は、平成23年4月に歯学部附属歯科技工士学校を改組して新設されました。新時代の歯科技工士の未来を拓く、世界のリーダーとなりうる人材の輩出を目指し、歯科技工の技術だけに偏るのではなく、幅広い知識と専門的技能を有し、多方面で活躍できる人材の育成を図っています。

本専攻の歴史は、昭和4年、本学の前身である東京高等歯科医学校に設置された技工士養成科にまで遡ります。この間、多くの人材を輩出し、国内はもとより、国際的に活躍する諸先輩も多く、歯科技工士養成校として本学は高く評価されています。皆さんはすでに業界での地位の確立された大学に入学し、専門教育を受けるのですから、卒業時には当然、皆さんに対する社会的な期待も大きなものになります。その期待にこたえるべく、教育内容は十分に検討したものです。世界中どこと比較しても、胸を張れる教員組織、環境、設備、そして教育内容です。ひとつひとつの科目に真剣に取り組み、達成すべき項目をすべて修得すれば、本学科の卒業生として、どこに出ても自信を持って活躍できるはずです。

グローバル化する社会においても、皆さんに対する期待は増すばかりです。社会の期待にこたえて専門職業人として、歯科医療に貢献する、歯科保健工学に貢献する、そして業界のリーダーとして、業界の未来を築いていってくれることを願っています。皆さんの将来は輝かしい可能性に満ちています。どうか先生方を信頼し、同胞とともに助けあいながら、力いっぱい勉学に励み、自分の人生を切り開く基盤を形成してください。

目 次

まえがき

基本的理念

一般教育目標

歯学部長あいさつ

東京医科歯科大学学部専門科目履修規則..... 1

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科専門科目履修内規..... 8

東京医科歯科大学試験規則..... 9

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科試験内規..... 12

学生周知事項等

歯科技工士国家試験について..... 13

学生周知事項..... 15

スチューデントセンター（5号館2階）について..... 18

保健管理センター（5号館2階）について..... 18

図書館について..... 19

国立美術館キャンパスメンバーについて..... 20

1号館・2号館・7号館の管理、使用について..... 20

附属病院内での注意事項..... 23

歯学部附属病院の機構..... 24

湯島キャンパス案内..... 26

1号館西6～8階平面図..... 27

2号館平面図..... 28

7号館平面図..... 29

1号館の配置..... 30

2号館の配置..... 31

7号館の配置..... 31

10号館の配置..... 32

M&Dタワーの配置..... 32

歯科棟の配置..... 33

平成24年度歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻専門課程科目授業計画表..... 34

口腔保健学科口腔保健工学専攻平成24年度1年次専門科目時間割..... 35

口腔保健学科口腔保健工学専攻平成24年度2年次専門科目時間割..... 36

歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻科目責任者連絡先一覧..... 37

第1学年履修科目

口腔保健工学概論..... 39

早期臨床体験実習..... 41

技術倫理..... 43

形態認識造形学..... 45

形態認識造形学実習	47
メディア情報学基礎	49
口腔保健材料力学	51
人体の構造と機能Ⅰ	53

第2学年履修科目

形態認識造形学実習	57
ヘルスプロモーション	60
人体の構造と機能Ⅰ	63
人体の構造と機能Ⅱ	66
口腔保健理工学	70
口腔保健理工学実習	73
精密鑄造学	76
精密鑄造学実習	78
咬合学	81
有床義歯工学	83
有床義歯工学実習	88
保存修復工学	95
歯冠修復工学	97
歯冠修復工学実習	100
プロセスデバイス工学	104

東京医科歯科大学学部専門科目履修規則

平成 22 年 3 月 30 日
規 則 第 4 1 号

(趣旨)

第 1 条 東京医科歯科大学における専門に関する教育科目（以下「専門科目」という。）の履修に関しては、東京医科歯科大学学則（平成 16 年規程第 4 号。以下「学則」という。）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(専門科目の履修)

第 2 条 専門科目の履修については、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て別表 1 に定めるとおりとする。

(授業)

第 3 条 専門科目の授業は、講義、演習若しくは実習により行い、必修、選択必修又は選択とする。

(1 単位当たりの授業時間)

第 4 条 学則第 36 条に定める 1 単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- | | |
|--------|-------|
| (1) 講義 | 15 時間 |
| (2) 演習 | 30 時間 |
| (3) 実習 | 45 時間 |

2 前項第 3 号の規定にかかわらず、医学部保健衛生学科の臨地実習の 1 単位当たりの授業時間は、次のとおりとする。

- | | |
|-------------|-------|
| (1) 看護学専攻 | 45 時間 |
| (2) 検査技術学専攻 | 30 時間 |

(編入学者、転入学者の単位認定)

第 5 条 学則第 12 条から第 18 条の 2 までの規定により編入学及び転入学の許可をするときは、既修得単位を全学共通科目及び専門科目に相当する単位として、一部又は全部を認定するものとする。

2 前項の認定は、全学共通科目に相当する科目については教養部において、専門科目に相当する科目については、当該学生が在籍する学部（以下「在籍学部」という。）におい

て行うものとする。

3 在籍学部は、入学を許可する学年及び履修方法等について、教養部と協議するものとする。

（再入学の単位認定）

第6条 学則第19条の規定により再入学を許可された者の当該学部における既修得単位は、全学共通科目及び当該学部専門科目の単位として、一部または全部を認定する。

（編入学者、転入学者、再入学者の在学年限）

第7条 学則第12条から第19条の規定により、編入学、転入学及び再入学を許可された者の在学年限は、学則第32条第1項に定める在学年限から入学を許可されたまでの経過学年数を減じた年数とする。

（試験及び単位）

第8条 履修した授業科目については、試験を行う。ただし、試験を行うことが困難な授業科目等については、試験によらず、学修の成果をもって、又は指定した課題についての報告をもって試験に替えることがある。

2 前項の試験に合格したときは、所定の単位を与える。

3 実習を伴わない授業科目については、試験に合格したときは所定の単位を与える。ただし、一授業科目の試験を分割して実施する科目については、そのすべての試験に合格しなければ単位を修得することができない。

4 実習を伴う授業科目については、試験に合格し、かつ、その授業科目の実習修了の認定が行われなければ所定の単位を修得することができない。

5 学習の評価は、別表2のとおりとする。

6 単位の認定は、医学部教授会又は歯学部教授会の議を経て当該学部長がこれを行う。

7 試験の方法に関しては別に定める。

（進級要件）

第9条 学生は、別表3に示す要件を満たさなければ、進級又は所定の授業科目の履修をすることができない。

2 医学部医学科にあっては、休学期間を除き、同一学年の在籍は2年までとし、なお成業の見込みがないと認められたときは、学則第33条第1号の規定により退学を命ずる。

（卒業認定）

第10条 学生の卒業認定は、学則第39条により行うものとする。

(補足)

第 11 条 この規則に定めるもののほか履修に関し必要な事項は各学部教授会の議を経て別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部履修規則（平成 16 年規則第 201 号）は、廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部履修規則（平成 16 年規則第 213 号）は、廃止する。
- 4 平成 22 年 3 月 31 日において現に医学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 22 年 4 月 1 日以降在学者の属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部履修規則の例による。
- 5 平成 22 年 3 月 31 日において現に歯学部在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 22 年 4 月 1 日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、改正後の別表の規程にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学歯学部履修規則の例による。

附 則（平成 23 年 3 月 4 日規則第 15 号）

- 1 この規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 23 年 3 月 31 日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 23 年 4 月 1 日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成 24 年 2 月 3 日規則第 19 号）

- 1 この規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 24 年 3 月 31 日において、現に本学に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 24 年 4 月 1 日以降に在学者の属する学年に再入学、転入学又は編入学する者については、改正後の別表の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表1

(1)～(5) 省略

(6) 口腔保健学科(口腔保健工学専攻) 教育課程

区 分		授 業 科 目	単 位 数		履 修 学 年															
					1 年				2 年				3 年				4 年			
					前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
口腔保健基 礎工学	口腔基礎科学	人体の構造と機能Ⅰ	2				○													
		人体の構造と機能Ⅱ	5					○		○										
		メディア情報学基礎	1				○													
		科学英語Ⅰ	1							○										
		科学英語Ⅱ	1									○								
		技術倫理	1				○													
	口腔保健工学統合学	口腔保健工学概論	2		○				○											
		キャリアマネジメント学	1										○							
		形態認識造形学	1				○													
		形態認識造形学実習	2				○		○		○									
		コミュニケーション論	1						○											
		ヘルスプロモーション(PBL)	2						○											
		人間工学デザイン論		1												○				
		口腔外科工学	1										○							
		発育口腔工学	1												○					
		保存修復工学	1						○											
		欠損再建工学	1										○							
		口腔リハビリテーション工学	1												○					
		口腔保健理工学	3						○											
		口腔保健理工学実習	2						○											
		早期臨床体験実習(共)	1		○		○													
		感染予防	1						○											
口腔保健機材工学	情報歯科医療工学	口腔保健材料力学	2				○							○						
		口腔保健材料力学実習	1											○						
		画像解析学概論		1													○			
		画像解析学概論実習		1													○			
		CAD/CAM システム工学	1										○							
		CAD/CAM システム工学実習	1										○							
	生体材料加工工学	オーラルインストゥルメント工学		1													○			
		バイオデザイン学		1												○				
		プロセスデバイス工学		2								○								
		精密鑄造学	1						○											
口腔保健再建工学	歯冠修復技工学	精密鑄造学実習	1					○												
		咬合学	1					○												
		咬合学実習	1							○		○								
		小児歯科工学	1												○					
		小児歯科工学実習	1											○						

口腔保健 再建工学	歯冠修復技工学	セラミック加工学	1										○						
		セラミック加工学実習	1										○						
		歯冠修復工学	4								○		○						
		歯冠修復工学実習	8								○		○						
		先進修復工学実習	1										○						
	口腔機能再建工学	矯正歯科工学	2												○				
		矯正歯科工学実習	1												○				
		有床義歯工学	4						○		○								
		有床義歯工学実習	8						○		○		○						
		スポーツ歯科工学	1														○		
		顎補綴工学	1												○				
		顎補綴工学実習	1												○				
		オーラルアプライアンス工学	1														○		
		再建工学包括臨床実習	14												○		○		○
		特論Ⅰ（卒業研究）	3														○		○
		特論Ⅱ（卒業作品）	3														○		○
	計		97	7															

※ 選択科目から3単位以上修得する。

別表 2

成績区分	評価区分	単位認定
100～90点	秀	合 格
89～80点	優	
79～70点	良	
69～60点	可	
59～0点	不可	不合格

別表 3

(1) ～ (4) 省略

(5) 口腔保健学科（口腔保健工学専攻）

(1) 第 1 学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第 2 学年に進級することができない。 人体の構造と機能Ⅰ、メディア情報学基礎、技術倫理、形態認識造形学、早期臨床体験実習（共）（第 1 学年次に実施される授業を対象とする） 口腔保健工学概論、形態認識造形学実習、口腔保健材料力学
(2) 第 2 学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第 3 学年に進級することができない。 人体の構造と機能Ⅱ、科学英語Ⅰ、口腔保健工学概論、形態認識造形学実習、コミュニケーション論、ヘルスプロモーション（PBL）、保存修復工学、口腔保健理工学、口腔保健理工学実習、感染予防、精密鑄造学、精密鑄造学実習、咬合学、有床義歯工学、 （第 2 学年次に実施される授業を対象とする） 咬合学実習、歯冠修復工学、歯冠修復工学実習、有床義歯工学実習
(3) 第 3 学年の前期までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第 3 学年後期以降の授業科目を履修することができない。 CAD/CAMシステム工学実習、咬合学実習、セラミック加工学実習、歯冠修復工学実習、先進修復工学実習、有床義歯工学実習
(4) 第 3 学年の末までに次の授業科目の単位の修得もしくは試験に合格しなければ、第 4 学年に進級することができない。 科学英語Ⅱ、キャリアマネジメント学、口腔外科工学、発育口腔工学、欠損再建工学、口腔リハビリテーション工学、口腔保健材料力学、口腔保健材料力学実習、CAD/CAMシステム工学、小児歯科工学、小児歯科工学実習、セラミック加工学、歯冠修復工学、矯正歯科工学、矯正歯科工学実習、顎補綴工学、顎補綴工学実習

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科専門科目履修内規

平成23年12月7日
歯学部長 制定

(趣旨)

第1条 この内規は、東京医科歯科大学歯学部専門科目履修規則（平成22年規則第41号。以下「履修規則」という。）第11条に基づき、歯学部口腔保健学科における専門に関する教育科目の履修に関し、必要な事項を定めるものとする。

(学習の評価)

第2条 定期試験及び追試験の成績については、担当教員が100点満点で採点し、授業科目ごとに履修規則別表2のとおり学習の評価を行う。

2 第1項の学習の評価に、平常の学習の成果を加味することができる。

(必修科目及び仮進級)

第3条 履修規則別表3(4)(5)に掲げる科目は、必修科目とする。

2 必修科目に係る試験の不合格者については、仮進級を認めない。

(G P)

第4条 G P (Grade Point) で成績を評価する場合は次のとおりとする。

成績評価	秀	優	良	可	不可
G P	4.0	3.0	2.0	1.0	0
成績区分	90点以上	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下

2 選択科目の履修を届け出た後、単位を認定されなかった科目については、未履修科目とし、G P A (Grade Point Average) の計算式には算入しない。

(補則)

第5条 この内規に定めるもののほか、履修に関し必要な事項は各専攻において別に定めることができる。

附 則

1 この内規は、平成23年12月7日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

2 平成23年3月31日において現に歯学部口腔保健学科に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以降在学者の属する学年に再入学、転入学する者については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

東京医科歯科大学試験規則

平成 23 年 4 月 1 日
規則 第 1 号

（趣旨）

第 1 条 この規則は、東京医科歯科大学における全学に共通する教育科目及び専門に関する教育科目（以下「授業科目」という。）の試験に関して、東京医科歯科大学学則（平成 16 年規程第 4 号。以下「学則」という。）、東京医科歯科大学全学共通科目履修規則（平成 16 年規則第 217 号。）及び東京医科歯科大学学部専門科目履修規則（平成 22 年規則第 41 号。）に定めるもののほか、必要な事項を定める。

（試験の種類）

第 2 条 試験は、本試験、追試験及び再試験とする。

（試験の方法）

第 3 条 試験は、筆答試験、コンピュータ活用試験、口答試験及び実地試験のいずれかによって行う。

（本試験）

第 4 条 本試験は、定期試験及び共用試験をいう。

2 共用試験は、医学部医学科及び歯学部歯学科において行う。

（定期試験）

第 5 条 定期試験とは、履修した授業科目について行う試験をいう。

2 定期試験の実施日時は、試験実施日の 2 週間前までに公示する。

3 定期試験を受験することのできる者は原則として次のとおりとする。

（1）講義及び演習 当該授業科目の授業時間数の 3 分の 2 以上履修した者

（2）実習 当該授業科目の授業時間数の 4 分の 3 以上履修した者

4 定期試験の結果は、公示する。

5 第 3 項に定めるもののほか、定期試験の受験資格に関し必要な事項は、医学部、歯学部又は教養部（以下「部局」という。）において別に定めることができる。

（共用試験）

第 6 条 共用試験とは、知識・問題解決能力を主として評価する多肢選択形式のコンピュータ活用試験（C B T）及び技能・態度を主として評価する客観的臨床能力試験（O S C E）をいう。

2 共用試験の実施日時は、試験実施日の 2 週間前までに公示する。

3 共用試験を受験することのできる者は医学部医学科及び歯学部歯学科において

別に定める。

4 共用試験の結果は、公示する。

（追試験）

第7条 追試験とは、病気、その他止むを得ない理由により本試験を受験できなかった者に対して行う試験をいう。ただし、追試験は原則として1回限りとする。

2 追試験を受験しようとする者（以下「追試験申請者」という。）は、所定の受験申請書に医師の診断書等の証明書類を添えて、本試験終了後原則として5日以内に医学部長、歯学部長又は教養部長（以下「学部長等」という。）に願い出て、許可を受けなければならない。

3 学部長等は、前項の申請について、教育委員会又は教務委員会と協議のうえ、その可否を決定し、追試験申請者に通知するものとする。

4 追試験受験決定が否の場合は、本試験を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第2項に定めるもののほか、追試験の申請に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

（再試験）

第8条 再試験とは、本試験又は追試験を受験し、不合格となった者に対し行う試験をいう。ただし、再試験は、原則として1回限りとする。

2 再試験の実施日時は、指定の期日までに公示する。

3 再試験は当該学部長等の判断により、受験を許可しないことがある。

4 再試験受験決定が否の場合は、当該授業科目を不合格とする。

5 試験の結果は、公示する。

6 第3項に定めるもののほか、再試験の許可に関し必要な事項は、部局において別に定めることができる。

（試験の成績）

第9条 本試験及び追試験による成績については、科目責任者が100点満点で採点し、60点以上を合格とする。

2 再試験の成績については、科目責任者が採点する。ただし成績は、60点を上限とする。

3 共用試験の成績については、前2項の規定にかかわらず、医学部医学科及び歯学部歯学科において別に定める。

（成績の報告）

第10条 科目責任者は、本試験、追試験及び再試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長等に報告しなければならない。

2 医学科教育委員会委員長又は歯学科教育委員会委員長は、共用試験について所定の用紙に採点結果を記入し、指定の期日までに当該学部長に報告しなければならない。

(罰則)

第 1 1 条 試験において不正行為があったときは、学則第 5 8 条の規定による懲戒の手続きをとるものとする。

(補則)

第 1 2 条 この規則に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 2 3 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 東京医科歯科大学医学部試験規則（平成 1 6 年規則 2 0 2 号）は廃止する。
- 3 東京医科歯科大学歯学部試験規則（平成 1 6 年規則 2 1 4 号）は廃止する。
- 4 この規則は、平成 2 3 年 3 月 3 1 日において現に医学部または歯学部に在学する者（以下「在学者」という。）及び平成 2 3 年 4 月 1 日以降在学者が所属する学年に再入学、転入学するものについては、改正後の規則にかかわらず、なお従前の東京医科歯科大学医学部試験規則または東京医科歯科大学歯学部試験規則の例による。

東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科試験内規

平成23年12月7日
歯学部長制定

（趣旨）

第1条 この内規は、東京医科歯科大学試験規則（平成23年規則第1号。以下「試験規則」という。）第12条に基づき、歯学部口腔保健学科における専門に関する教育科目の試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

（試験の種類）

第2条 試験規則第5条に規定する定期試験とは、期末試験及び中間試験とする。

（期末試験及び中間試験）

第3条 期末試験とは、履修を修了した授業科目及び授業科目を構成するユニット（以下「ユニット」という。）について定期的に行う試験をいう。

2 中間試験とは、履修中の授業科目及びユニットについて適宜行う試験をいう。

3 期末試験及び中間試験の実施時期については、口腔保健衛生学専攻及び口腔保健工学専攻（以下、「各専攻」という。）において別に定める。

（追試験）

第4条 追試験は、原則として定期試験の実施期間に行う。

（再試験）

第5条 定期試験に係る再試験は、原則として定期試験の実施期間に行う。

（補則）

第6条 この内規に定めるもののほか、試験に関し必要な事項は各専攻において別に定めることができる。

附 則

1. この内規は、平成23年12月7日から施行し、平成23年4月1日から適用する。
2. 東京医科歯科大学歯学部口腔保健学科に平成23年3月31日に在学し、引き続き本学科の在学者となった者（以下「在学者」という。）及び平成23年4月1日以後在学者の属する学年に再入学、転入学及び編入学する者に係る試験については、この内規の規定にかかわらず、なお従前の例による。

学生周知事項等

歯科技工士国家試験について

東京都歯科技工士国家試験（東京都福祉保健局）

[試験の概要]

（試験科目）

（１）学説試験

歯科理工学、歯の解剖学、顎口腔機能学、有床義歯技工学、歯冠修復技工学、矯正歯科技工学、小児歯科技工学、関係法規

（２）実地試験

歯科技工実技

（受験資格）

（１）文部科学大臣の指定した歯科技工士学校を卒業した者

（２）厚生労働大臣の指定した歯科技工士養成校を卒業した者

（３）歯科医師国家試験又は歯科医師国家試験予備試験を受けることができる者

（４）外国の歯科技工士学校若しくは歯科技工士養成所を卒業し、又は外国で歯科技工士の免許を受けた者で、厚生労働大臣が前記（１）（２）（３）に掲げる者と同等以上の知識及び技能を有すると認めた者（出願前に東京都に申し出る必要があります。）

（試験期日）

例年、２月の第２週に行われます。

平成 24 年の東京都歯科技工士国家試験は、学説試験が平成 24 年 2 月 13 日（月）に、実地試験が 2 月 15 日（水）または 16 日（木）のうち指定するいずれかの日に行われました。

（試験手数料）

受験手数料の額は 36,000 円です。

ただし、東京都福祉保健局関係手数料条例（平成 12 年東京都条例第 87 号）第 5 条に基づき、次のアに掲げる者については試験手数料を免除、イに掲げる者については試験手数料の 2 分の 1 の額を減額されます。

ア 生活保護法（昭和 25 年法律第 144 号）による扶助を受けている者

イ 身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 383 号）による身体障害者手帳を受けている者

該当する場合は、所定の様式に当該事項を証する書類の写しを添付して申請し、出願の際には原本を持参し、照合を受ける必要があります。

(受験手続)

1. 必要書類

ア 受験願書

イ 受験資格を証する書類（受験資格の（１）、（２）に該当する者は卒業証明書、卒業見込証明書）

ウ 受験写真用台紙（写真貼付）および受験票（領収証書貼付）

エ 連絡用住所・氏名シール

2. 出願について

大学で必要書類をとりまとめ、東京都福祉保健局に提出します。

なお、出願に必要な書類は、東京都福祉保健局から毎年 12 月に各学校・養成所に送付されます。

(その他)

1. 視覚、聴覚、音声機能又は言語機能に障害を有する者で受験を希望するものは、例年 11 月末までに東京都福祉保健局まで申し出る必要があります。申し出た者については、受験の際にその障害の状態に応じて必要な配慮を講じることがあります。

2. 書類作成のために、戸籍抄本の写しが必要です。

学生周知事項

1. 掲示について

学生への告知、通知、連絡はすべて掲示板に掲示します。掲示の見落としがないよう十分注意すると共に、1日に1度は掲示を見て不利益をこうむらないように心がけましょう。

(口腔保健工学専攻掲示板は2号館2階にあります。)

2. 学生証について

(1) 学生証は常に携帯すること。

(2) 学生証を紛失または破損等したときは、学務企画課(1号館西1階)に届け出て再交付の手続きをしてください。再交付費用(2,200円)は学生本人の負担とします。

(3) 学生証は卒業、退学または除籍のときには直ちに学務企画課へ返納すること。返却できない場合は、費用を負担することとします。

3. 学生旅客運賃割引証

(1) 課外活動または帰省等でJR線を利用し、乗車区間が片道100kmを超える場合、旅客運賃の割引(2割)を受けることができます。

(2) 学割証の不正使用(第三者への貸与等)は絶対にしないこと。

(3) 年間使用限度枚数は1人10枚(1回につき2枚まで)です。

(4) 私鉄、バス等の利用において通学証明書を必要とする場合は、所定の用紙をもらい、教務課歯学系教務掛(1号館西1階)に問い合わせてください。

(5) 学割証が必要なときは5号館3階談話室にある証明書自動発行機を使用すること。

利用日時：月曜日～金曜日、8:30～21:00

問い合わせ先：学生支援課(内線5077)

4. 証明書等

証明書等は、教務課および証明書自動発行機にて発行します。

<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/procedure/shigaku/index.html>

(1) 次に掲げるものは、教務課歯学系教務掛(1号館西1階)で発行します。歯学部証明書交付願を記入し提出してください。(受付時間 8:30～17:15)

(①と②の交付は、原則として交付願を受理した日から1週間程度要します。)

①成績証明書

②調査書

③英文の在学証明書

④通学証明書(交通機関から請求された場合に限る)

通学証明書が必要な場合は、歯学系教務掛に問い合わせてください。

鉄道やバスの通学定期券を購入する場合は、住居の最寄り駅または大学の最寄り駅にて学生証を提示し、直接購入してください。

(2) 次に掲げるものは、5号館3階談話室にある自動発行機で発行します。

(利用日時：月曜日～金曜日、8：30～21：00)

(問い合わせ先：学務企画課企画調査掛（内線 5074）)

①在学証明書

②卒業見込証明書（第4学年在学者のみ）

5. 住所・氏名等の変更について

本人または保証人の住所、氏名、電話、本籍等（電話番号を含む）に変更が生じたときには、速やかに教務掛へ申し出て所定の手続きをしてください。

6. 欠席、休学、復学、退学

(1) 授業の欠席

病気その他の事由により欠席した場合は、欠席届を教務課歯学系教務掛（1号館西1階）へ提出すること。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付すること。）

(2) 休学

病気その他の事由により、引き続き3か月以上休学する場合は、休学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を得ること。（病気の場合は、必ず医師の診断書を添付すること。）

休学を許可される期間は、通算して2年以内です。（特別の事情があるときは、さらに1年以内の休学が許可されることがあります。）

(3) 復学

休学している学生が、休学許可期間の途中または満了時に復学を希望する場合は、復学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を得ること。（病気を理由に休学した場合は、復学可能である旨の意思の診断書を添付すること。）

(4) 退学

病気その他の事由により、学業を継続することが困難となり、退学しようとする場合は、退学願（保証人連署）を歯学系教務掛へ提出し、学長の許可を得ること。

なお、退学するにあたっては、事前に担任教員等と面談し、退学事由等について十分相談すること。

7. ネームプレート着用について

歯学部学生であることを明示するために、歯学部・同附属病院実習中は必ずネームプレートを着用すること。

プレートは貸与とし、紛失または破損した場合は、再交付を受けるものとします。この場

合は実費を負担すること。

学科専攻名と氏名の間のスペースに学年を表示するシール（例「OE2」）を貼ること。シールは歯学系教務掛で配布しているので、汚損したら適宜貼りかえること。

8. 授業中（大学行事、課外授業を含む。）の事故等

入学時に加入した「学校教育災害傷害保険」（学研災）および「医学生教育研究賠償責任保険」（医学陪）の対象となります。（詳細は「学生生活の手引き」を参照してください。）

問い合わせ先：学生支援課（1号館西1階）内線（5077）

<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/support/insurance-regime/index.html>

9. 遺失物および拾得物

校内での遺失物に関する問い合わせまたは拾得物の届け出は、下記のとおりです。

（1）講義室、実習室、ロッカー室：学務部教務課（1号館西1階：内線 5411）

学部防災センター（歯科棟北1階）

口腔保健工学専攻事務室（2号館2階：内線 5780）

（2）上記（1）以外：歯学部総務課（歯科棟南2階：内線 5406）

10. 授業料の払込について

金融機関の預金口座振替により、授業料が引き落とされます。

前期分授業料は4月中に、後期分授業料は10月中に納付すること。

11. 湯島キャンパスにおける講義受講に際しての注意事項

（1）平日の午前8時30分から午後5時まで歯学部附属病院玄関から出入りすることを原則禁止します。

（2）歯学部建物内へは、以下のように出入りすること。

1）聖門⇄1号館、2号館、7号館

2）正門⇄1号館、2号館、7号館

3）御茶ノ水門あるいは丸の内線出口⇄1号館、2号館、歯学部附属病院防災センター（歯学部時間外通用門）

（3）白衣または実習着を着用していない学生は、歯学部附属病院の聖橋側エレベーターを使用すること。

（4）臨床実習履修中の学生以外がやむを得ない理由で歯学部附属病院内を移動するときは、私語を慎むこと。

（5）白衣または実習着を着用したまま学外に出ないこと。

（6）校舎内は禁煙です。

12. その他

(1) クラブ、サークル等宛の郵便物等は、学生支援課の窓口で保管しているので、責任者は適宜確認してください。

なお、個人宛の郵便物等は、大学に配達されることがないようにお願いします。

(2) 事務の窓口

教務事務：学務部教務課歯学系教務掛（1号館西1階、内線 5411）

授業料の納入：財務部資金課収入管理掛（1号館西3階、内線 5048）

奨学金、授業料免除：学務部学生支援課学生支援総括掛（1号館西1階、内線 5077）

奨学金：<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/scholarship/index.html>

授業料免除：<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/exemption/index.html>

スチューデントセンターについて

1. 場所：5号館2階

2. 開室時間：9：00～17：00

3. 主な業務：生活、修学、就職、メンタルヘルス及びハラスメントに関することなど、キャンパスライフ全般に渡り全学的に支援を行い、学生支援活動の充実を図ることを目的として設置されています。

- 生活に関する相談…家族の問題・経済的な問題・恋愛問題など
- 修学に関する相談…勉強の進捗状況・進学・研究室の人間関係など
- 就職に関する相談…卒業後の進路・就職活動など
- メンタルヘルスに関する相談…健康の問題・ストレス・心の問題・対人関係など
- ハラスメントに関する相談…アカデミックハラスメント・パワーハラスメント・セクシャルハラスメントなど

4. 個別相談時間：10:30～17:00（ご予約ください。予約なしでも可能な限り対応します。）

5. 就職・キャリア支援に関する情報の提供（学務部学生支援課と共同企画・運営）

ホームページ：<http://www.tmd.ac.jp/campuslife/career/index.html>

6. 問い合わせ先：内線 4959

ホームページ：<http://www.tmd.ac.jp/cmn/stdc/index.html>

保健管理センターについて

1. 場所：5号館2階

2. 利用可能時間：8：45～12：00、13：00～17：00

3. 主な業務：（詳細は「保健管理センター案内」を参照してください。）

- 健康相談、処置（担当医による相談：10：00～12：00、13：00～15：00）

- 健康診断書の発行：事前申し込みが必要です。必ず学生一般定期健康診断を受けていなければなりません。保健管理センター窓口で相談してください。
 - 健康診断（5月）と各種検査、ワクチン接種（年間予定により実施）
4. 問い合わせ先：内線 5081
- ホームページ：<http://www.tmd.ac.jp/cmn/hsc/hsc.htm>

図書館について

- 場所：M&D タワー3階（カウンター、閲覧席等）、4階（閲覧席、情報検索室等）
- 利用可能時間：

開館時間	平日	8：30～22：00
	土日祝	8：30～17：00
	（情報検索室） 平日	9：00～21：00
	土日祝	9：00～16：00
休館日		年末年始

- 利用方法：（詳細は「図書館利用案内」を参照してください。）
 - 図書館の利用には、利用証が必要です。IC カードタイプの学生証が利用証になります。
 - 貸出を希望される資料と利用証を持って、カウンターへお越しください。自動貸出機もご利用いただけます。
 - 引き続き資料を利用したい場合、貸出期間を延長することが出来ます。My Library もしくはカウンターで延長手続きをしてください。
 - 本館・分館間で週に一度、資料の取り寄せを行っています。カウンターで申込手続きを行ってください。
 - 本館・分館の資料は、どちらの図書館でも返却できます。

開館時：カウンターに返却してください。

閉館時：入り口に設置されたブックポストに返却してください。
 - 製本雑誌は自動書庫に保管されています。あらかじめ予約をしてご利用ください。
 - 電子ジャーナルは出版社との契約により、学内 LAN からの利用のみになります。
 - 本学の資料を著作権の範囲内で複製することができます。コピーはセルフサービスです。図書館に設置されているコピー機をお使いください。現金またはプリペイドカードでお支払いください。料金：モノクロ 1 枚 10 円 カラー1 枚 50 円
 - 情報検索室では備付の PC が利用できます。ネットワークの利用にはアカウントとパスワードが必要です。プリンターは情報検索室を出て左手奥に 2 台設置されており、有料となります。
 - 館内は無線 LAN 対応です。各自で持ち込まれるパソコンからインターネット、学内 LAN に接続する場合は、アカウントとパスワードが必要となります。印刷は自動書庫傍に印

刷専用の PC が設置されています。USB メモリー等によりデータを移し、印刷してください。印刷物は PC 左手のプリンター（有料）から出力されます。

- 利用したい資料が学内（講座・電子ジャーナル含む）になく、他大学や研究機関の図書館で所蔵している場合、複写を申し込む、または図書を取り寄せることができます。複写と貸借のお申込みは、My Library か図書館カウンターで受付けています。
 - 他大学の図書館を利用する場合、身分証の他に紹介状が必要です。訪問先で利用したい資料の所在を確認し、カウンターでお申込みください。なお、明治大学の図書館は本学の学生証で利用することができます。
 - 館内での飲食は原則禁止です。（本館では、3 階の図書館入口前に、飲食ラウンジがあります。）
4. 問い合わせ先：内線 5596 e-mail: info-serve.lib@ml.tmd.ac.jp
ホームページ:<http://www.tmd.ac.jp/lib/guide/top.html>

国立美術館キャンパスメンバーズについて

「国立美術館キャンパスメンバーズ」とは、学校教育において美術館を有効に活用することと、学生や教職員の美術に親しむ機会をより豊かにすることを目的とした、大学等を対象とする制度です。本学でもこのキャンパスメンバーズに加入しています。

1. 対象：本学の学部学生・大学院生・歯科技工士学校生・教職員
2. 特典：所蔵作品展の「無料観覧」（所蔵作品を持たない国立新美術館を除く）
特別展・共催展の「割引観覧」（学生は大学生団体料金・教職員は一般団体料金）
3. 利用方法：各館の券売所または改札で学生は学生証、教職員は身分証明書を提示し、キャンパスメンバーズの利用の旨を伝え、入館または観覧券を購入してください。
4. 利用機関：以下の 5 館
国立西洋美術館、東京国立近代美術館、国立新美術館、国立国際美術館、京都国立近代美術館
5. ホームページ：http://www.tmd.ac.jp/campuslife/campus_members/index.html
<http://www.campusmembers.jp/>

1 号館西・2 号館・7 号館の管理、使用について

1. 1 号館西・2 号館・7 号館の出入口の施錠（平日）について
- 1 号館西出入口
- | | | |
|-------|-------|------------------|
| 1 号館西 | 正面玄関 | 終日出入可（防災センター管理） |
| 1 号館西 | 東側出入口 | 解錠 6：00 施錠 18：30 |
- 2 号館出入口
- | | |
|---------|------------------|
| 2 階正面玄関 | 解錠 7：30 施錠 18：00 |
|---------|------------------|

2 階外階段 解錠 7:30 施錠 18:00 (施錠後も内から外へは出られます)
2 階歯科棟接続口 終日出入可

7 号館出入口

1 階聖門側 (1 か所) 解錠 7:30 施錠 18:00
歯科棟北接続口 (東側 6 か所) 解錠 7:30 施錠 18:00
1 号館東接続口 (2 階、3 階 2 か所) 解錠 7:00 施錠 20:00

消防法の規定により、歯科棟側は避難口のため、施錠しても建物内から外へは常に出られます。
ただし、1 号館東接続口 (2 階、3 階) は施錠すると出入りできません。

2. 1 号館西・2 号館・7 号館内各室の施錠について

1 号館西講義室 解錠 7:30 施錠 18:00
2 号館講義室 随時 (口腔保健工学専攻教員が解・施錠)
7 号館講義室 解錠 7:30 施錠 17:00
2 号館学生ロッカー室 番号ロック制

3. 1 号館西・2 号館・7 号館における講義室の目的外使用について

講義室は、原則として目的外使用は許可しません。

4. 学生ロッカー室 (2 号館 3 階) について

- (1) ロッカー室は、更衣のほか、休憩室として使用できます。
- (2) 各人にロッカーが貸与されるので、丁寧に使用してください。
男子学生は学生ロッカー室 1、女子学生は学生ロッカー室 2 を使用します。
また、各人の責による破損等については、各人の負担により原状回復してください。
- (3) ロッカーの使用にあたって、各人で暗証番号を設定し、ロッカーには必ず鍵を閉め、盗難に注意しましょう。ロッカーでの盗難が多発しているため、特に貴重品等の管理は厳重にしてください。
- (4) ロッカーの上部に私物を置かないこと。放置された私物は、適宜、予告なしに処分されます。
- (5) ロッカーの内外部にシール、ポスター等を貼らないこと。
- (6) 飲食後の空容器、紙くず等は、必ず分別してゴミ箱に捨て、ロッカー室に放置しないこと。
- (7) ロッカー室でサークルの集会をしたり、マージャン等をしたりしないこと。

5. リフレッシュルーム (2 号館) の使用について

- (1) リフレッシュルームは、食事、休憩、歯磨きなどの目的で使います。
- (2) 口腔保健学科口腔保健工学専攻学生の共用であるとともに、歯学部附属病院技工士学校

の学生が使用します。

(3) 周囲に迷惑がかからぬよう、お互いに協力して、節度をもって使用すること。

(4) 注意事項

- ・ 私物を保管・放置したり、特定の場所を占拠したりしないこと。放置された私物は、適宜、予告なしに処分されます。
- ・ エアコンの設定温度に留意し、誰もいないときにはエアコンを消すこと。
- ・ 飲食した空容器、紙くず等は放置せず、必ず分別してごみ箱に捨てること。
- ・ 洗面台の排水が詰まるので、食べ物のカス等を流さないこと。
- ・ 全員退出する際には電源を全て消すこと。
- ・ ホワイトボードは全学年共用で、学生間の連絡のほか、教員からの連絡にも使用することがあります。不要になった書き込みや掲示物は書いたものや掲示したものが責任を持って消し、撤去すること。

(5) リフレッシュルームは平日に使用できますが、長期休暇中は平日も施錠されるので、その期間中に使用したい学生は、口腔保健工学専攻教員に申し出て解・施錠してもらうこと。

6. 歯学部リフレッシュルームについて

7号館1F及び6Fには、学生の休息、自己学習等での使用を目的としたリフレッシュスペースが設けられている。この施設では無線LANを利用して、学内LANへの接続も可能である。施設を利用する場合は、下記の注意事項を厳守すること。

1. 利用時間

平日 午前8時30分～午後7時30分

2. 利用する上での注意事項

- (1) きれいに、清潔に利用すること。
- (2) 一部の学生が独占的に利用する環境を作らないこと。
- (3) 私物や貴重品は極力置かないこと（紛失は本人の責任となる）。
- (4) 禁煙とする。
- (5) 本学学生としてあるまじき行為を行った場合、大学の懲戒規定にかかるとともに、他の学生を含め、当施設の利用を全面的に禁止することが有り得ることを念頭に置き、使用すること。
- (6) 他に使用している学生を考慮し、騒がないこと。
- (7) ゴミの始末は各自で行うこと。

7. 学生用ホワイトボード（リフレッシュルーム）の使用について

- (1) 掲示物の内容については関知しないが、良識をもって掲示すること。
- (2) 掲示期間を過ぎることのないよう、自主的に撤去すること。

8. 講義室・実習室の使用について

- (1) 講義室・実習室における飲食は原則として禁止します。
- (2) 講義室の机の上に腰をかけないこと。
- (3) 7号館7階以上は動物実験施設なので感染予防等のため関係者以外の出入りを禁止します。
- (4) 講義室・実習室においては、紙くず等を散らさないようにし、必ず分別してごみ箱に捨てること。
- (5) 参考書・ノート等の私物は講義室の中に放置しないこと。放置された私物は、適宜、予告なしに処分されます。
- (6) 室内は学生用ホワイトボード・掲示板以外に掲示物の添付を禁じます。
- (7) 講義室・実習室等においては、下駄ばきを厳禁します。

附属病院内での注意事項

- 1. 附属病院内の通行に際しては、特に患者さんに配慮すること。
- 2. 附属病院内の患者待合室での休憩は禁止します。
- 3. 附属病院内では、つっかけ・スリッパ等の使用を禁止します。

歯学部附属病院の機構

歯学部附属病院は、患者の診療を通じて歯学の教育と研究を行う場です。しかし、最近では社会の要請にも答える必要から、歯科医療における模範的診療機関としての使命も課せられています。

1. 診療科

歯科病棟	8 階
歯科麻酔外来	7 階
インプラント外来	
口腔外科外来	6 階
顎顔面外科外来	
顎義歯外来	
言語治療外来	
むし歯外来	5 階
歯周病外来	
第一総合診療室	4 階
第二総合診療室	
歯科心身医療外来	
顎関節治療部	
義歯外来	3 階
歯科アレルギー外来	
スポーツ歯科外来	
クリーンルーム歯科外来	
矯正歯科外来	2 階
小児歯科外来	
ペインクリニック	
口腔ケア外来	
歯科総合診療部	1 階
スペシャルケア外来（高齢者）	
スペシャルケア外来（障がい者）	
摂食リハビリテーション外来	
息さわやか外来	
セカンドオピニオン外来	
歯科放射線外来	地下 1 階

クリーンルーム歯科外来（3 階）は、院内感染のリスクを分散しないために、血液・唾液・その他を媒体として院内感染を引き起こす可能性のある病原微生物（肝炎ウイルス、HIV、MRSA

など)を有する患者のうち、内科主治医等により疾患の管理がなされ、外来診療に耐え得る患者の一般歯科診療を行う施設として設けられています。

第1 総合診療室(4階)は歯学科学生臨床実習の場として、一口腔単位の総合歯科診療が行われています。学生は歯科診療用ユニットと技工机(5階)が配当されます。また、第2 総合診療室(4階)は臨床研修医の総合研修が行われています。口腔保健学科口腔ケア実習北2診療室(4階)では口腔保健学科口腔保健衛生学専攻学生の臨床実習が行われます。

2. 病棟(8階)

入院患者のために、60床のベッドとそれに必要な処置室、記録室等付帯施設が完備され、基準看護のもとに、日夜にわたる診療体制が敷かれています。

3. 中央診療施設

検査部、歯科技工部、医療安全管理室、感染対策室、診療情報管理室、歯科臨床研修センター、地域歯科医療連携センター、歯科医療情報センター、歯科器材・薬品開発センター、中央手術室、中央器材室が設置されています。

歯科技工部は、歯学部附属病院3階にあり、約25名の歯科技工士が全診療科で扱う補綴物の作製等の歯科技工業務を行っています。附属歯科技工士学校および口腔保健工学専攻の学生の臨床実習では歯科技工部を通して患者のための歯科技工を実際に行います。

4. 薬剤部(1階)

数名の薬剤師が配置されており、薬剤に関する業務(調剤、製剤、処方、薬品の管理、薬品の情報の収集・伝達など)および歯学科臨床実習を行う学生に対する処方箋の取り扱いその他の教育を行っています。

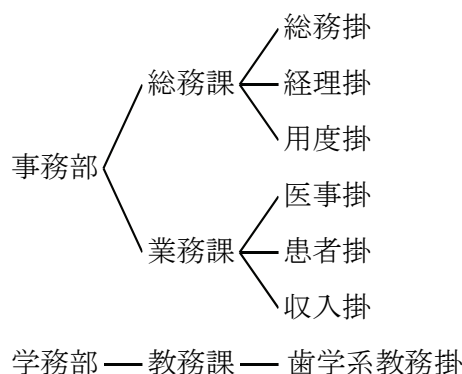
5. 看護部

約80名の看護師が各診療科や病棟に配置されており、病院の看護業務を行っています。

8. 歯科衛生保健部

約30名の歯科衛生士が口腔ケア外来や関係診療科に配置されており、歯科診療における歯科健康教育、歯科予防処置、歯科診療補助を行っています。口腔保健学科口腔保健衛生学専攻の学生の教育を行っています。

9. 事務部



歯学部の事務業務は、総務課と業務課によって行われています。また、学生は学務部教務課歯

学系教務掛を通じて病院内で勉学できるようになっています。患者は全て業務課を経て受診するように決められています。

患者の歯科技工に用いる歯科材料は、医事掛材料室から給付されます。

10. 病院の管理運営

病院長が病院の管理運営を統括します。病院は、病院長、各科長、各部長によって構成される病院運営会議によって運営されます。また、学生の臨床教育については、各臨床教授で構成される臨床教育会議および歯学科、口腔保健学科教育委員会において討議されています。

湯島キャンパス案内



- | | | |
|---------------|--------------|------------------|
| ① 1号館西 | ⑨ 医科A棟 | ⑭ 6号館 |
| ② 2号館 | ⑩ 医科B棟 | ⑮ 8号館南 |
| ③ 1号館東 | ⑪ 3号館 | ⑯ 8号館北 |
| ④ 7号館・動物実験施設棟 | ⑫ M&Dタワー | ⑰ 生体材料工学研究所 |
| ⑤ 歯科棟北 | ⑬ 5号館(生協) | ⑱ 難治疾患研究所駿河台棟 |
| ⑥ 歯科棟南 | (保健管理センター) | ⑲ 12号棟 |
| ⑦ 10号館 | (チューデントセンター) | ⑳ 看護師宿舎(レジデンス茗芳) |

1号館西6～8階平面図

8階

実習室

メディア

坂本講師

品田教授

講座別
研究室3

講座別
研究室4

小野寺講師
近藤講師

吉増教授

学科事務室

非常勤
講師室

遠藤准教授

講師室

白田教授

寺岡教授

EV

資料
保管室2

EV

臨床系研究室

口腔保健学科
第4講義室

学科セミナー室3

口腔保健学科
臨床基礎実習室

口腔保健学科
相互実習室

トイレ
(W)

トイレ
(M)

7階

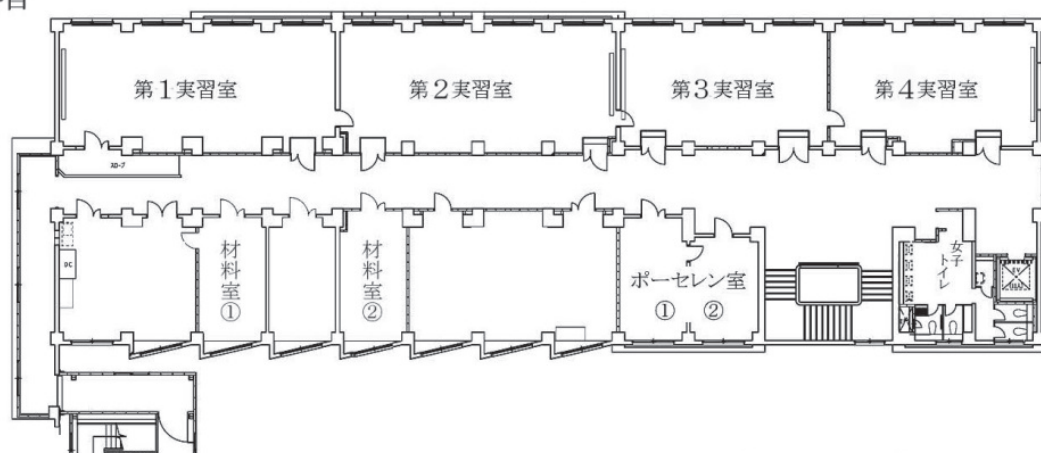
カー 学生 室 ロッ		口腔保健学科 リフレッシュルーム	カー 学生 室 ロッ	学生ロッ カー室3	研究 座別 研究室1	ナ 学 科 室 1	ナ 学 科 室 2	講 座別 研究室2	基礎系 研究室1	基礎系 研究室2	EV
資料 保管 室1	EV	口腔保健学科 第1講義室	口腔保健学科 第2講義室	口腔保健学科 第3講義室		福祉介 護実習 室	口腔保健学科 基礎科学実習室				
トイレ (W)	トイレ (M)										

6階

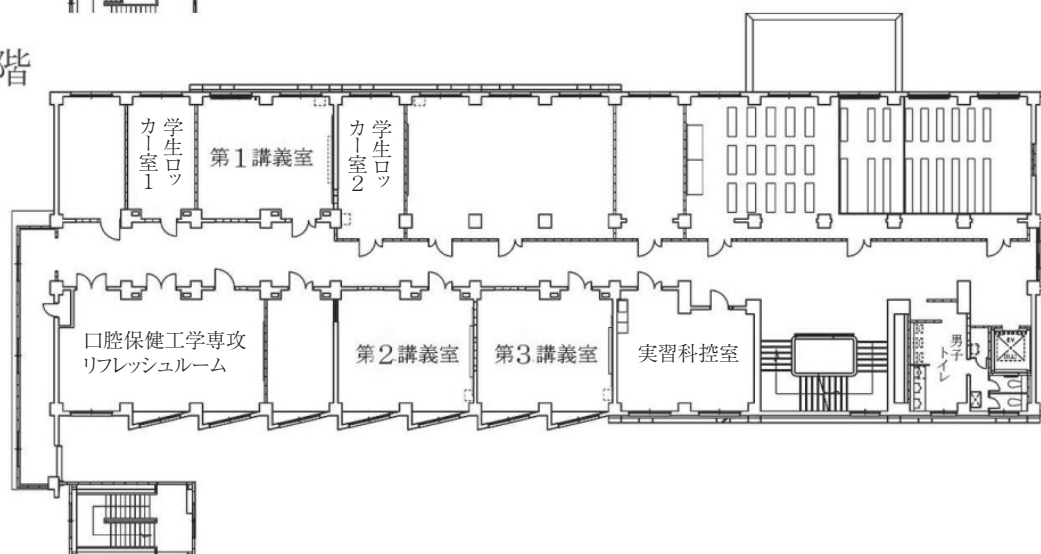
演習室11			演習室10	演習室9	演習室8	演習室7	演習室6	演習室5	先端材料評価学分野 研究室		歯学部基礎 小実習室	EV
準備室		EV	歯学部 演習室 3・4		歯学部 演習室 1・2		先端材料評価学分野 研究室		実習準備室	歯学部 基礎実習室		
トイレ (W)		トイレ (M)										

2号館平面図

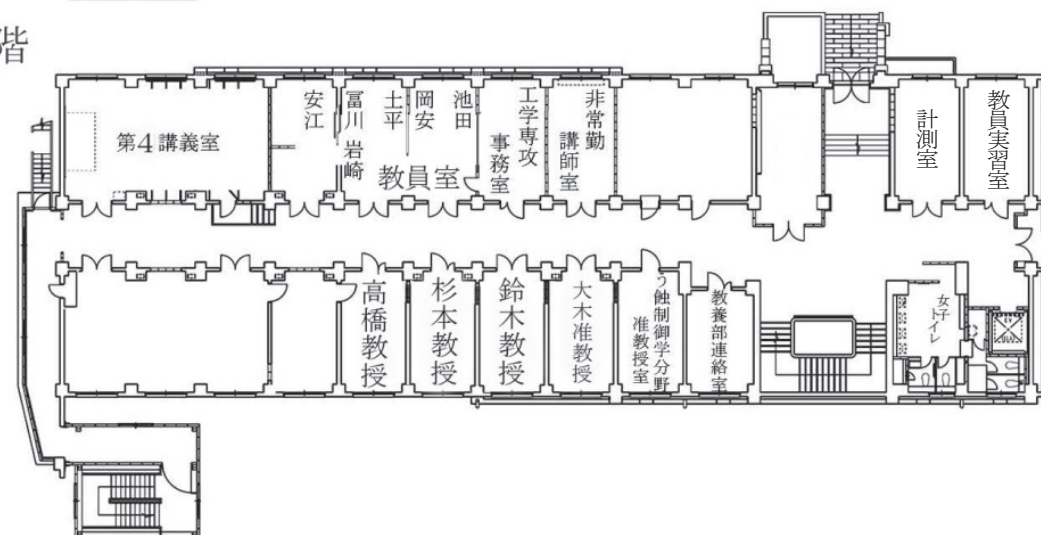
4階



3階

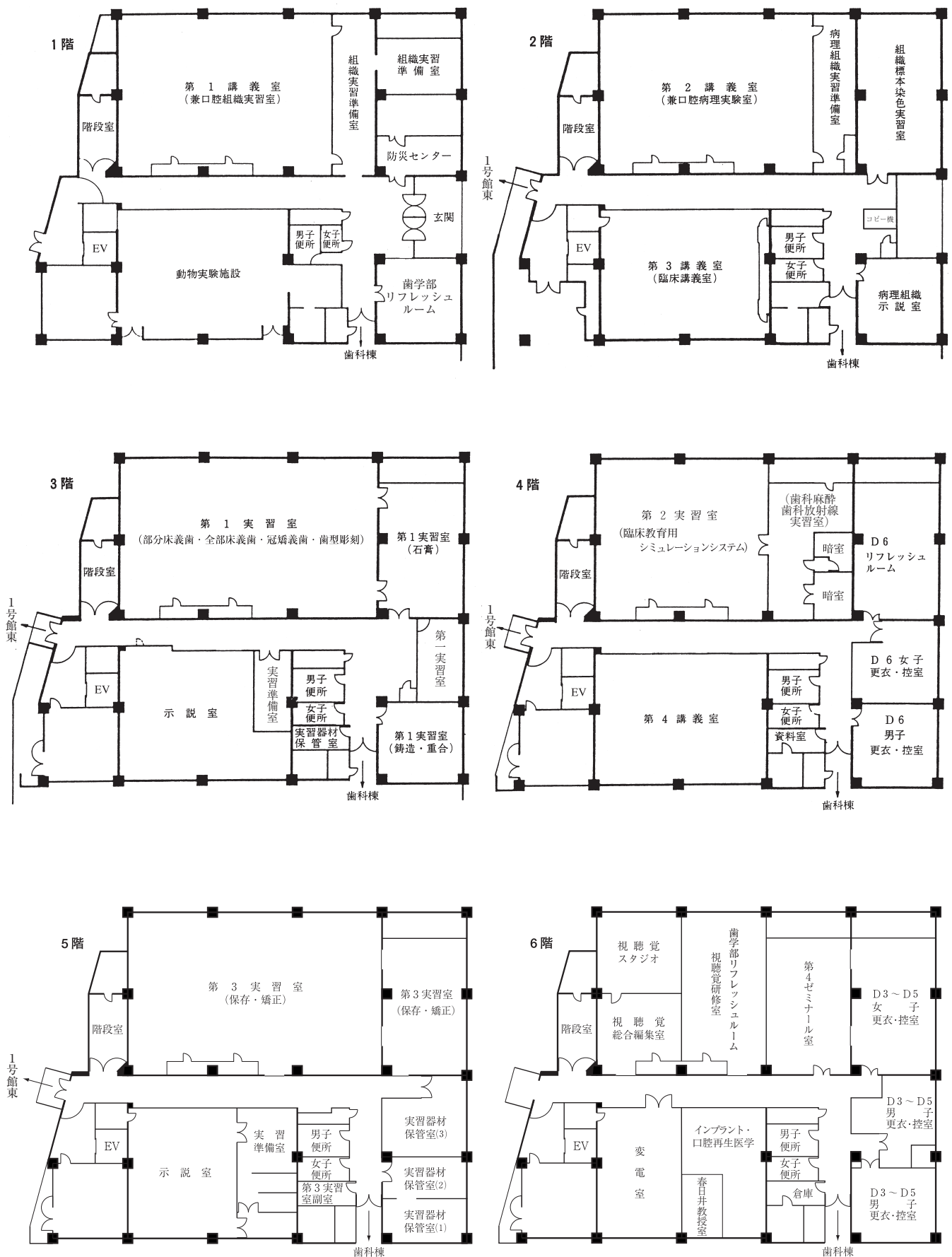


2階



2階
歯科棟
連絡口

7号館平面図



1号館の配置

階	1号館西				1号館東	
	講義室・実習室	研究室等	教授室等	その他	研究室等	教授室
9	特 別 講 堂			歯科同窓会事務室 特別第1会議室		
8	口腔保健衛生学専攻 第4講義室 臨床基礎実習室 相互実習室 メディア実習室	口腔保健衛生学専攻 学科セミナー室3 講座別研究室3, 4 臨床系研究室	口腔保健衛生学 専攻 教 授 室 准教授室 講 師 室	口腔保健衛生学専攻 学 科 事 務 室 非常勤講師室 資料保管室2		
7	口腔保健衛生学専攻 第1～3講義室 基礎科学実習室 福祉介護実習室 学生ロッカー室1～3 リフレッシュルーム	口腔保健衛生学専攻 学科セミナー室1, 2 講座別研究室1, 2 基礎系研究室1, 2		口腔保健衛生学専攻 資料保管室1	歯学部会議室 第1, 2ゼミナール室	
6	歯学部演習室1～11 基礎実習室	先端材料評価学	宇尾		第3ゼミナール室	
5	スキララボⅡ	医歯学教育システム 研究センター 生命倫理研究センター	荒木	女性研究者支援室	インプラント・ 口腔再生医学 口腔病理学	
4				学 術 国 際 部 国際交流センター	口 腔 病 理 学	
3				財 務 部 施 設 部	全部床義歯補綴学 歯学部	水口 石川、下山
2				総務部総務課	監 査 法 人 室 全部床義歯補綴学	
1				学 務 企 画 課 学 生 支 援 課 学務課歯学系教務掛 入 試 課 総 務 部 人 事 課		

2 号館の配置

階	講義室・実習室	研究室等	教授室等	その他
4	第 1~4 実習室			
3	第 1~3 講義室			学生ロッカー室 1, 2 リフレッシュルーム
2	第 4 講義室	教員実習室 計測室 教員研究室 う蝕制御学分野	教授室 准教授室 講師室 口腔保健工学専攻・歯 科技工士学校教員室 非常勤講師室 准教授室	歯学部附属病院 5 S 室 教養部連絡室 口腔保健工学専攻・ 歯科技工士学校事務室
1				和同会事務室 実験施設

7 号館の配置

階	講義室・実習室	研究室	教授室	その他
7~11				動物実験施設
6	第 4 ゼミナール室	インプラント・ 口腔再生医学	春日井	D3~D5 男子更衣・控室 D3~D5 女子更衣・控室 リフレッシュルーム 変電室
5	第 3 実習室 示説室			
4	第 4 講義室 第 2 実習室 歯科麻酔歯科放射線実習室			D 6 男子更衣・控室 D 6 女子更衣・控室 D6 リフレッシュルーム
3	第 1 実習室 示説室			
2	第 2 , 3 講義室			コピー機
1	第 1 講義室			リフレッシュルーム 動物実験施設

10 号館の配置

階	研究室	教授室等
7	歯 周 病 学	和泉
6	顎 顔 面 外 科 学	原田
5	高 齢 者 歯 科 学 疼 痛 制 御 学	嶋田
4	疼 痛 制 御 学 麻 酔 ・ 生 体 管 理 学 ス ポ ー ツ 医 歯 学	深山
3	ス ポ ー ツ 医 歯 学 障 害 者 歯 科 学 歯 科 医 療 行 動 科 学	上野 篠塚 俣木
2	顎 顔 面 補 綴 学 歯 科 心 身 医 学 総 合 診 療 歯 科 学	谷口 豊福

M&D タワーの配置

	階	研究室	教授室等		階	研究室	教授室等
北側	8	硬組織構造生物学 分子情報伝達学	高野 高柳	南側	8	細菌感染制御学	中川
	7	硬組織病態生化学 歯学教育開発学 口腔放射線腫瘍学 硬組織再生学	柳下 森尾 三浦(雅) 篠村		7	硬組織薬理学 認知神経生物学	大谷 泰羅
	6	分子発生学 ナノメディスン(DNP) 分子細胞機能学	井関 森田		6	医療経済学 顎顔面解剖学 分子免疫学	川淵 柴田 東
階		講堂・図書館		研究室・その他		教授室等	
4		図書館		情報検索室 図書館情報メディア機構 教育メディア開発学		木下	
3							
2		鈴木章夫記念講堂		共用講義室1, 2			

歯科棟の配置

〈歯科棟北〉

階	分野	教授室等	外来等	医局	その他
12	咬合機能矯正学 顎顔面矯正学	小野 森山			歯科衛生保健部
11	部分床義歯補綴学 摂食機能保存学 小児歯科学	五十嵐 三浦(宏)			
10	う蝕制御学 歯髄生物学 健康推進歯学	田上 須田 川口			歯科衛生保健部
9	顎口腔外科学 口腔放射線医学 顎関節咬合学	小村 倉林 木野		顎関節咬合学	
8			病棟		医員当直室(男)
7			歯科麻酔外来 インプラント外来 手術室	麻酔・生体管理学	医員当直室(女) 滅菌材料室
6	口腔病態診断科学		口腔外科外来 顎顔面外科外来 顎義歯外来 言語治療外来 検査部	顎口腔外科学 顎顔面外科学 検査部	
5			むし歯外来 歯周病外来	う蝕制御学 歯髄生物学 歯周病学	総合技工室
4			第1総合診療室 第2総合診療室 顎関節治療部 歯科心身外来		ヘッドライター室 器材準備室
3			義歯外来 スポーツ歯科外来 歯科アレルギー外来 クリーンルーム歯科外来 技工部	部分床義歯補綴学 全部床義歯補綴学 摂食機能保存学 高齢者歯科学	大会議室 小会議室 看護部 研修医技工室
2	歯学教育システム 評価学		小児歯科外来 矯正歯科外来 ペインクリニック 口腔ケア外来	小児歯科学 咬合機能矯正学 顎顔面矯正学	歯学部総務課 歯学部国際交流室
1			歯科総合診療部 スペシャルケア外来 息さわやか外来 薬剤部	歯科総合診療部	電算室 防災センター 器材薬剤センター 和同会売店 研修医控室
B1			歯科放射線外来		低温室 ボイラー室
B2					談話室 食堂

〈歯科棟南：外来事務棟〉

平成 24 年度 歯学部 口腔保健学科口腔保健工学専攻 専門科目授業計画表

第 1 学年

学部専門科目		期間	
前期	「口腔保健工学概論」	H24.4.17 (火) ～ H24.5.15 (火)	
		5 週 毎週火曜日	
	「早期臨床体験実習」	H24.9.26 (水) ～ H24.9.28 (金)	
後期	「早期臨床体験実習」		
	「技術倫理」	H24.10.2 (火) ～ H25.2.5 (火)	
	「人体の構造と機能Ⅰ」	17 週 毎週火曜日	
	「形態認識造形学」	(H25.2.5 専門科目試験)	
	「形態認識造形学実習」		
	「メディア情報学基礎」		
	「口腔保健材料力学Ⅰ」		

第 2 学年

区分		期間
前期	春季休業	H24.4.2 (火) ～ H24.4.5 (木)
	専門課程ガイダンス	H24.4.6 (金)
	授業 17 週	H24.4.9 (月) ～ H24.7.30 (月)
	夏季休業	H24.7.31 (火) ～ H24.9.14 (金)
	補講および定期試験	H24.9.18 (火) ～ H24.9.28 (金)
後期	授業 12 週	H24.10.1 (月) ～ H24.12.21 (金)
	創立記念日のため休講	H24.10.12 (金)
	お茶の水祭	H24.10.13 (土) ～ H24.10.14 (日)
	解剖体追悼式	H24.10.18 (木) 午後予定
	特別研修期間	H24.11.19 (月) ～ H24.11.22 (木)
	冬季休業	H24.12.25 (火) ～ H25.1.4 (金)
	授業 5 週	H25.1.7 (月) ～ H25.2.8 (金)
	補講および定期試験	H25.2.12 (火) ～ H25.3.1 (金)
	春季休業	H25.3.4 (月) ～ H25.3.29 (金)

口腔保健学科口腔保健工学専攻第1学年 平成24年度火曜日授業時間割

前期

日時		8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40
4/17	火	生物学入門－1 (服部)歯学部特別講堂	化学基礎－1 (澤野)歯学部特別講堂	(12:00～ 抗体検査 保健管理センター)	15:00～16:30 口腔保健工学概論－2 (口腔保健学科教員) 1号館6階 歯学部演習室	
				13:20～14:50 口腔保健工学概論－1 (口腔保健学科教員) 2号館2階 第4講義室		
4/24	火	生物学入門－2 (服部)歯学部特別講堂	化学基礎－2 (澤野)歯学部特別講堂	口腔保健工学概論－3 (口腔保健学科教員)歯学部演習室	口腔保健工学概論－4 (口腔保健学科教員)歯学部演習室	
5/1	火	生物学入門－3 (服部)歯学部特別講堂	化学基礎－3 (澤野)歯学部特別講堂	口腔保健工学概論－5 (口腔保健学科教員)2号館2階第4講義室	口腔保健工学概論－6 (口腔保健学科教員)歯学部演習室	
5/8	火	生物学入門－4 (服部)歯学部特別講堂	化学基礎－4 (澤野)歯学部特別講堂	口腔保健工学概論－7 (口腔保健学科教員)歯学部演習室	口腔保健工学概論－8 (口腔保健学科教員)歯学部演習室	
5/15	火	生物学入門－5 (服部)歯学部特別講堂	化学基礎－5 (澤野)歯学部特別講堂	健康診断	教養総合講座 (全教員)M&Dタワー2F大講堂	教養総合講座 (全教員)M&Dタワー2F大講堂
日時		9:10～10:40	10:50～12:20	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00
5/22	火	生物学入門－6 (服部)	化学基礎－6 (澤野)		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
5/29	火	生物学入門－7 (服部)	化学基礎－7 (澤野)		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
6/5	火	生物学入門－8 (服部)	化学基礎－8 (澤野)		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
6/12	火	生物学入門－9 (服部)	化学基礎－9 (澤野)		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
6/19	火	生物学入門－10 (服部)	化学基礎－10 (澤野)		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
6/26	火	生物学入門－11 (服部)	化学基礎－11 (澤野)		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/3	火	生物学入門－12 (服部)	化学基礎－12 (澤野)		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/10	火	生物学入門－13 (服部)	化学基礎－13 (澤野)		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/17	火	生物学入門－14 (服部)	化学基礎－14 (澤野)		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
7/24	火	生物学入門－15 (服部)	化学基礎－15 (澤野)		教養総合講座 (全教員)全教室	教養総合講座 (全教員)全教室
夏季休業		平成23年8月1日～9月9日				
前期試験		平成23年9月12日～9月16日				
9/18	火	教養総合講座 (全教員)全教室				
9/25	火	教養総合講座 (全教員)全教室				
9/26	水					
9/27	木	早期臨床体験実習-1～15 (口腔保健学科口腔保健工学専攻教員、大学院医歯学総合研究科歯学系教員等) 歯学部附属病院外来、歯科技工士学校、歯科技工部、学外歯科技工所				
9/28	金					
後期						
日時		8:50～10:20	10:30～12:00	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40
10/2	火	技術倫理-1 (皆吉)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-1 (杉本)口腔保健工学専攻第1講義室	早期臨床体験実習-16～18 (口腔保健学科口腔保健工学専攻教員、大学院医歯学総合研究科歯学系教員等) 歯学部附属病院外来、歯科技工士学校、歯科技工部、学外歯科技工所		
10/9	火	技術倫理-2 (皆吉)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-2 (坂本)口腔保健工学専攻第1講義室	早期臨床体験実習-19～21 (口腔保健学科口腔保健工学専攻教員、大学院医歯学総合研究科歯学系教員等) 歯学部附属病院外来、歯科技工士学校、歯科技工部、学外歯科技工所		
10/16	火	技術倫理-3 (皆吉)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-3 (坂本)口腔保健工学専攻第1講義室	早期臨床体験実習-22～23 (口腔保健学科口腔保健工学専攻教員) 口腔保健工学専攻第1講義室		
10/23	火	技術倫理-4 (皆吉)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-4 (坂本)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-1 (伊藤)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-1 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-2 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
10/30	火	技術倫理-5 (皆吉)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-5 (杉本)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-3 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-2 (伊藤)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-4 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
11/6	火	技術倫理-6 (皆吉)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-6 (杉本)口腔保健工学専攻第1講義室	メディア情報学基礎-1 (木下)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-5 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-6 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
11/13	火	技術倫理-7 (皆吉)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-7 (坂本)口腔保健工学専攻第1講義室	メディア情報学基礎-2 (大谷)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-3 (伊藤)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-7 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
11/20	火	技術倫理-8 (皆吉)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-8 (杉本)口腔保健工学専攻第1講義室	メディア情報学基礎-3 (佐々木)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-8 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-9 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
11/27	火	口腔保健材料力学(I)-1 (高橋)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-9 (杉本)口腔保健工学専攻第1講義室	メディア情報学基礎-4 (木下)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-4 (伊藤)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-10 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
12/4	火	口腔保健材料力学(I)-2 (高橋)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-10 (杉本)口腔保健工学専攻第1講義室	メディア情報学基礎-5 (木下)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-11 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-12 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
12/11	火	口腔保健材料力学(I)-3 (高橋)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-11 (杉本)口腔保健工学専攻第1講義室	メディア情報学基礎-6 (佐々木)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-5 (伊藤)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-13 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
12/18	火	口腔保健材料力学(I)-4 (高橋)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-12 (坂本)口腔保健工学専攻第1講義室	メディア情報学基礎-7 (佐々木)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-14 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-15 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
冬季休業		平成23年12月25日～平成24年1月4日				
1/8	火	口腔保健材料力学(I)-5 (高橋)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-13 (杉本)口腔保健工学専攻第1講義室	メディア情報学基礎-8 (木下)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-6 (伊藤)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-16 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
1/15	火	口腔保健材料力学(I)-6 (高橋)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-14 (杉本)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-17 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-18 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-7 (伊藤)口腔保健工学専攻第1講義室
1/22	火	口腔保健材料力学(I)-7 (高橋)口腔保健工学専攻第1講義室	人体の構造と機能 I-15 (杉本)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-19 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-20 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-21 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室
1/29	火	口腔保健材料力学(I)-8 (高橋)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-8 (伊藤)口腔保健工学専攻第1講義室	形態認識造形学実習-22 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	形態認識造形学実習-23 (伊藤)口腔保健工学専攻第4実習室	
2/5	火			専門科目試験		
春季休業		平成23年2月18日～3月29日				

口腔保健学科口腔保健工学専攻第2学年 平成24年度授業時間割

		月曜日							火曜日							水曜日							木曜日							金曜日													
週	月日	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8		
1	4/2－4/6																																			専門課程ガイダンス							
2	4/9－4/13	オリエンテーション		理工実習					人体Ⅱ	有床講義	有床実習		人体Ⅰ			保存	ヘルプロ					有床講義	有床実習		咬合	有床実習	理工講義		理工実習														
3	4/16－4/20	人体Ⅱ	理工講義	理工実習					人体Ⅱ	有床講義	有床実習		人体Ⅰ			保存	ヘルプロ					有床講義	有床実習		有床実習	理工講義		理工実習															
4	4/23－4/27	人体Ⅰ	理工講義	理工実習					形態実習	有床講義	有床実習		人体Ⅱ			保存	ヘルプロ					有床講義	有床実習		咬合	有床実習	理工講義	理工実習															
5	4/30－5/4	振替休日							鑄造実習(2)	有床講義	理工講義	理工実習		人体Ⅰ			保存	ヘルプロ					憲法記念日				みどりの日																
6	5/7－5/11	人体Ⅱ	理工講義	理工実習					鑄造実習(2)	有床講義	有床実習		人体Ⅰ			保存	ヘルプロ					有床講義	有床実習		咬合	有床実習	理工講義	理工実習															
7	5/14－5/18	人体Ⅰ	理工講義	理工実習					鑄造実習(2)	有床講義	有床実習		人体Ⅱ			保存	ヘルプロ	補講	有床講義			有床実習		有床実習		鑄造講義	鑄造実習(1)																
8	5/21－5/25	人体Ⅰ	理工講義	鑄造実習(1)					鑄造実習(2)	有床講義	有床実習		人体Ⅱ			保存	ヘルプロ	補講	有床講義			有床実習		ヘルプロ	有床講義	有床実習	咬合	有床実習	鑄造講義	鑄造実習(1)													
9	5/28－6/1	人体Ⅱ	理工講義	鑄造実習(1)					鑄造実習(2)	有床講義	有床実習		人体Ⅱ			保存	ヘルプロ		有床講義			有床実習		ヘルプロ	有床講義	有床実習	咬合	有床実習	鑄造実習(1)														
10	6/4－6/8	人体Ⅱ	鑄造実習(1)					鑄造実習(2)	有床講義	有床実習		人体Ⅰ			保存	ヘルプロ				有床講義	有床実習		ヘルプロ	有床講義	有床実習	咬合	有床実習	鑄造講義	鑄造実習(1)														
11	6/11－6/15	鑄造実習(2)	理工講義	理工実習					人体Ⅱ	有床講義	有床実習		人体Ⅰ			保存	ヘルプロ				有床実習			ヘルプロ	有床講義	有床実習	咬合	有床実習	鑄造講義	理工実習													
12	6/18－6/22	形態実習	理工講義	理工実習					形態実習	有床講義	有床実習		人体Ⅰ			保存	ヘルプロ				有床講義	有床実習		ヘルプロ	有床講義	有床実習	咬合	有床実習	理工講義	理工実習													
13	6/25－6/29	人体Ⅱ	理工講義	理工実習					形態実習	有床講義	有床実習		人体Ⅰ			咬合	補講				有床講義	有床実習		咬合	有床実習	理工実習																	
14	7/2－7/6	人体Ⅱ	理工講義	理工実習					形態実習	有床講義	有床実習		人体Ⅰ			咬合	補講				有床講義			有床実習		理工講義		理工実習		理工講義													
15	7/9－7/13	人体Ⅱ	理工実習	理工講義					形態実習	有床講義	有床実習		人体Ⅰ		咬合	補講				有床講義	保存	有床実習		理工講義		理工実習																	
16	7/16－7/20	海の日							形態実習	有床講義	有床実習		人体Ⅰ			咬合	補講				有床講義	保存	有床実習		理工講義		理工実習																
17	7/23－7/27	人体Ⅱ	理工講義	理工実習					形態実習	有床講義	有床実習		咬合			補講				有床講義			有床実習		理工講義		理工実習																
18	7/30－8/3	人体Ⅱ	理工実習																																								
19	8/6－8/10																																										
20	8/13－8/17																																										
21	8/20－8/24																																										
22	8/27－8/31																																										
23	9/3－9/7																																										
24	9/10－9/14																																										
25	9/17－9/21	敬老の日							試験および補講期間																																		
26	9/24－9/28	試験および補講期間																																									
27	10/1－10/5	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					プロデ	有床実習					有床講義	冠修実習																		
28	10/8－10/12	体育の日							形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					プロデ	有床実習					創立記念日																		
29	10/15－10/19	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					プロデ	有床実習					有床講義	冠修実習																		
30	10/22－10/26	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					プロデ	有床実習					有床講義	冠修実習																		
31	10/29－11/2	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					プロデ	有床実習					有床講義	冠修実習																		
32	11/5－11/9	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					プロデ	有床実習					有床講義	冠修実習																		
33	11/12－11/16	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習					補講			プロデ	有床実習					有床講義	冠修実習																			
34	11/19－11/23	特別研修期間																																		勤労感謝の日							
35	11/26－11/30	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					プロデ	有床実習					有床講義	冠修実習																		
36	12/3－12/7	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					有床実習	プロデ					有床講義	冠修実習																		
37	12/10－12/14	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					有床実習						有床講義	冠修実習																		
38	12/17－12/21	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					プロデ	有床実習					特別研修報告会																			
39	12/24－12/28	振替休日																																									
40	12/31－1/4								元旦																																		
41	1/7－1/11	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					有床実習		プロデ					冠修実習																		
42	1/14－1/18	成人の日							形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					プロデ	有床実習					有床講義	冠修実習																	
43	1/21－1/25	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					プロデ	有床実習					有床講義	冠修実習																		
44	1/28－2/1	人体Ⅱ	冠修実習					形態実習	有床実習		冠修講義		冠修実習					プロデ	有床実習					冠修実習																			
45	2/4－2/8	人体Ⅱ	冠修実習					人体Ⅱ	冠修実習					冠修講義	冠修実習					冠修実習						有床講義	冠修実習																
46	2/11－2/15	建国記念日							試験および補講期間																																		
47	2/18－2/22	試験および補講期間																																									
48	2/25－3/1	実習試験(カービングコンテスト)																																									
49	3/4－3/8																																										
50	3/11－3/15																																										
51	3/18－3/22																								春分の日																		
52	3/25－3/29																																										

歯学部口腔保健学科口腔保健工学専攻 教員連絡先一覧

講座名	分野名	氏名	メールアドレス
口腔保健基礎工学講座	口 腔 基 礎 科 学	杉本 久美子	ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp
	口腔保健工学統合学	大木 明子	moki.mfoe@tmd.ac.jp
	口 腔 臨 床 科 学	池田 正臣	ikeda.sdt@tmd.ac.jp
口腔保健機材工学講座	生 体 材 料 加 工 学	高橋 英和	takahashi.bmoe@tmd.ac.jp
		岩崎 直彦	iwasaki.bmoe@tmd.ac.jp
	情報歯科医療工学	岡安 晴生	okayasu.sdt@tmd.ac.jp
口腔保健再建工学講座	口腔機能再建技工学	鈴木 哲也	suzuki.peoe@tmd.ac.jp
		富川 紘一	fukawa.peoe@tmd.ac.jp
	歯冠修復技工学	安江 透	yasue.sdt@tmd.ac.jp

第 1 学年 履修科目

科目名	口腔保健工学概論
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	口腔保健工学概論(1) 1 学年前期・16 時間・必修 口腔保健工学概論(2) 2 学年前期・14 時間・必修 } 2 単位
科目責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、遠藤圭子(口腔疾患予防学分野)、口腔保健学科教員
主な授業場所	口腔保健工学専攻第4講義室、歯学部演習室ほか

口腔保健工学概論の構成ユニット

- 1 年次: 口腔保健工学概論(1) (口腔保健衛生学専攻との合同PBL)
 2 年次: 口腔保健工学概論(2)

口腔保健工学概論(1)

学習目標(GIO)

自学自習とディスカッションに基づく問題基盤型学習(PBL)や演習をとおして、口腔保健の基礎知識、保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理や実務上の態度・姿勢、多職種連携の重要性を学ぶ。

到達目標(SBOs)

1. 口腔保健の概要を説明する。
2. 保健・医療・福祉の専門職に共通する職業倫理を説明する。
3. 保健・医療・福祉の専門職に共通する実務上の態度・姿勢を説明する。
4. 保健・医療・福祉の専門職による多職種連携の重要性を説明する。

授業計画 1 学年前期・8 回・必修 (1 回の授業時間: 90 分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	4	17	オリエンテーション	口腔保健と専門職を学ぶ意義、学習方法(PBL テュートリアル)	1	遠藤
2	4	17	シナリオ1	シナリオ提示、学習項目の検討	1-4	口腔保健 学科教員
3	4	24	学習項目の発表	ディスカッション	1-4	〃
4	4	24	全体発表準備	全体発表項目、発表法の検討	1-4	〃
5	5	1	全体発表	グループ評価	1-4	〃
6	5	1	シナリオ 2	シナリオ提示、学習項目の検討	1-4	〃

7	5	8	学習項目の発表	ディスカッション	1-4	〃
8	5	8	学習の振り返り	まとめ	1-4	遠藤

評価方法

- ・口腔保健工学概論(1)は授業内レポート、グループディスカッションの参加状況で総合的に評価する。
- ・口腔保健工学概論の最終判定は、口腔保健工学概論(1)と口腔保健工学概論(2)の成績を合わせて行う。

参考図書等

- ・授業中に配布する資料。
- ・参考書は授業時に紹介する。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

鈴木哲也 教 授 随時 suzuki.peoe@tmd.ac.jp
遠藤圭子 准教授 随時 usagi.aohc@tmd.ac.jp

科目名	早期臨床体験実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	1 学年前期・30 時間・必修 1 学年後期・15 時間・必修 } 1 単位
科目責任者	岡安晴生
授業担当者	鈴木哲也、高橋英和、杉本久美子、大木明子、安江透、岡安晴生、池田正臣、富川紘一、岩崎直彦
主な授業場所	口腔保健工学専攻第 1 講義室、第 4 実習室、歯学部附属病院、歯科技工所、歯科材料メーカー

学習目標(GIO)

今後の学習への強い動機を獲得するため、臨床の現場を体験することで、歯科医学ならびに歯科医療の現状を認識するとともに、医療人としての基本的態度を修得する。また、歯科技工士に求められる資質は技工物をつくるだけではなく、人の健康の維持・増進に関わる職業であることを認識する。

到達目標(SBOs)

1. 歯科医療従事者に求められる基本的態度を身につける。
2. 歯科医療が人々の健康の維持増進に果たす社会的役割を認識する。
3. 歯科医療のなかでの歯科技工士の役割を認識する。
4. 歯科材料、器械の扱いを学ぶ。

授業計画

1 学年前期・15 回・必修(1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-5	9	26	オリエンテーション	実習についての講義、課題	1,2,3	鈴木、安江、岡安
6-10	9	27	実習、資料室見学	ミニチュアの入歯製作、過去の技工物などの見学	4	安江、富川、岩崎
11-15	9	28	病院見学、歯科技工部見学	歯学部附属病院における、治療および技工物製作現場の見学	1,2,3	鈴木、大木、池田

1 学年後期・8 回・必修(1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
16-18	10	2	歯科技工所見学	外部の歯科技工所における、臨床現場の見学	3	岡安

19-21	10	9	企業見学	歯科材料メーカーにおける体験実習	3,4	高橋、杉本、大木、岡安、池田、富川
22,23	10	16	学習結果発表	見学、実習を通しての、課題に対する学習結果発表	1,2,3	鈴木、高橋、杉本、大木、安江、岡安、池田、富川、岩崎

評価方法

出席、実習態度、提出物、学習結果発表、レポート等から総合的に評価する。

参考図書等

必要に応じ、口腔保健学科口腔保健工学専攻教員より適宜、資料の配布を行う。

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

岡安晴生 講師 火～金 16:00-18:00 okayasu.sdt@tmd.ac.jp

科目名	技術倫理
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・15 時間・必修 1 単位
科目責任者	安江 透
授業担当者	皆吉淳平(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第1講義室

学習目標(GIO)

人間の身体・生命にかかわる技術者として求められる「技術倫理」について理解し、洞察を深める。

到達目標(SBOs)

1. 技術倫理の特性についての概要を理解する。
2. 事故の社会的要因と技術との関係性について初歩的な理解を得る。
3. 専門職論における「専門職」の要件について理解する。
4. 専門職にとっての倫理綱領が有する社会的意味について理解する。
5. 医療におけるインフォームド・コンセントの歴史的展開を理解する。
6. 医療におけるインフォームド・コンセントの哲学・倫理的な議論の概略を理解する。
7. 技術者にもとめられる説明責任の倫理的・社会的な基礎づけを理解する。
8. 製造物責任の考え方、および、製造物責任法(PL 法)の概要を理解する。
9. 健康被害を生じさせた事例から、法と社会・倫理との関係について理解する。
10. 知的財産権の考え方の概要を理解する。
11. 人々の健康・生命にかかわる分野における知的財産権が孕む問題について理解する。
12. エンハンスメントと呼ばれる倫理的問題群について概要を理解する。
13. 医療技術の存在意義について、「願望実現医療」の事例から考察できるようになる。
14. 人間の身体・生命にかかわる技術について、倫理的・社会的に考える視点を習得する。

授業計画 1 学年後期・8 回・必修 1 単位(1 回の授業時間:90 分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
1	10	2	技術倫理とは何か、なぜ必要か	チャレンジャー号爆発事故をめぐる技術・社会・倫理	1, 2	皆吉
2	10	9	プロフェッションとしての倫理	倫理綱領の社会的意味	3, 4	〃
3	10	16	インフォームド・コンセントと説明責任 1	医療におけるインフォームド・コンセント	5, 6	〃

4	10	23	インフォームド・コンセントと説明責任 2	技術者にとっての説明責任	7	皆吉
5	10	30	製造物責任	カネミ油症事件をめぐる技術・社会・倫理	8, 9	//
6	11	6	知的財産権と人々の健康	医薬品・医療機器の特許と社会	10, 11	//
7	11	13	人体改造の技術と倫理	エンハンスメント・願望実現医療と技術・倫理	12, 13	//
8	11	20	歯科技工と技術倫理	歯科技工士にとっての医療倫理・技術倫理と社会	14	//

評価方法

- ・レポートに、平常点(コメントペーパーの内容など)を加味して、総合的に評価する。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・小出泰士『JABEE対応 技術者倫理入門』丸善、2010 年
- ・新田孝彦・蔵田伸雄・石原孝二編『科学技術倫理を学ぶ人のために』世界思想社、2005 年
- ・市野川容孝編『生命倫理とは何か』平凡社、2002 年
- ・香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー携書、ディスカヴァー・トゥエンティワン、2009 年
- ・山中浩司『医療技術と器具の社会史』大阪大学出版会、2009 年
- ・その他、書籍や参考になるWebサイトなどは、適宜、紹介する。

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

安江 透 講師 随時 yasue.sdt@tmd.ac.jp

科目名	形態認識造形学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・15 時間・必修 1 単位
科目責任者	安江 透
授業担当者	伊藤恵夫(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第1講義室

学習目標(GIO)

口腔保健工学の基礎となる形態の認識と造形に関する知識を習得し、「観察力」、「認識力」、「造形力」を養い、培う。

到達目標(SBOs)

1. 形態を客観的に見る。(観察力)
2. 形態の意味を読み取る。(認識力)
3. 自分の意図した形態を作る。(造形力)
4. 観察力、認識力、造形力について理論的背景を含めて理解する。

授業計画 1 学年後期・8 回・必修 1 単位(1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
1	10	23	概論	概論	1-4	伊藤
2	10	30	観察力	見えるということ	1	〃
3	11	13	〃	「かたち」と「いろ」	1	〃
4	11	27	認識力	「かたち」と「しくみ」	2	〃
5	12	11	〃	歯と系統進化	2	〃
6	1	8	造形力	「線」と「面」	3	〃
7	1	15	〃	「面」と「立体」	3	〃
8	1	29	まとめ	まとめ	4	〃

評価方法

授業への積極的な参加状況、提出物、試験から判断し評価する。

参考図書等

必要に応じてプリントを配布する。

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

安江 透 講師 随時 yasue.sdt@tmd.ac.jp

科目名	形態認識造形学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・45 時間・必修 2 学年前後期・45 時間・必修 } 2 単位
科目責任者	安江 透
授業担当者	安江 透、富川紘一、伊藤恵夫(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第4実習室

学習目標(GIO)

形態認識造形学で学ぶ理論的背景を基に、口腔保健工学の基本的技術力の基礎となる「観察力」、「認識力」、「造形力」を培う。

到達目標(SBOs)

1. 形態を客観的に見る。(観察力)
2. 形態の意味を読み取る。(認識力)
3. 自分の意図した形態を作る。(造形力)
4. 観察力、認識力、造形力について理解する。

授業計画 1 学年後期・23 回・必修(1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
1	10	23	概論	概論	4	伊藤、安江、富川
2	10	23	観察力(平面)	客観的観察	1	〃
3	10	30	〃	線と面	1	〃
4	10	30	〃	プロポーション	1	〃
5	11	6	観察力(立体)	幾何形体	1	〃
6	11	6	〃	立体の見え方(パースペクティブ)	1	〃
7	11	13	〃	歯の観察	1	〃
8	11	20	認識力	色(三要素)	2	〃
9	11	20	〃	構図	2	〃
10	11	27	〃	錯視	2	〃
11	12	4	〃	形体と機能	2	〃
12	12	4	〃	「見えたように」と「見えるように」	2	〃
13	12	11	〃	進化と食性	2	〃

14	12	18	造形力(平面)	デカルト座標	3	伊藤、安江、富川
15	12	18	〃	グレースケールの作成	3	〃
16	1	8	〃	描写	3	〃
17	1	15	〃	〃	3	〃
18	1	15	〃	〃	3	〃
19	1	22	造形力(立体)	模刻	3	〃
20	1	22	〃	〃	3	〃
21	1	22	〃	〃	3	〃
22	1	29	〃	〃	3	〃
23	1	29	まとめ	まとめ	4	〃

評価方法

毎回の提出物(作品)を総合的に判断し評価する。

参考図書等

必要に応じてプリントを配布する。

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

安江 透 講師 随時 yasue.sdt@tmd.ac.jp

富川 紘一 助教 随時 fukawa.peoe@tmd.ac.jp

科目名	メディア情報学基礎
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・15 時間・必修 1 単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	木下淳博・須永昌代(図書館情報メディア機構)、大谷啓一(硬組織薬理学分野)、佐々木好幸(う蝕制御学分野)、徳永伸一(教養部)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第1講義室

学習目標(GIO)

- ・コンピューターによるメディア情報処理、コンテンツ作成の基礎を修得する。
- ・インターネットとコンピューターを利用した口腔保健活動および研究活動に必要な情報検索の方法を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 学内無線 LAN に各自持ち込み PC を接続する。
2. インターネットにおけるセキュリティー管理、著作権保護を実践する。
3. PC 上で静止画像・プレゼンテーションファイルを作成する。
4. PC 上で動画画像を編集する。
5. インターネットからの情報を適切に収集し、吟味する。

授業計画 1 学年後期・8 回・必修 1 単位(1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	11	6	オリエンテーション	コース概説、無線 LAN 概要・扱い、各自持参パソコンの無線 LAN 接続、インターネットとセキュリティー、著作権、e-learning 基礎(Bb)	1, 2	木下、徳永、 須永、メディア 情報掛
2	11	13	プレゼンテーション入門 (Power Point®) メディアコンテンツ作成1	研究発表に必要なプレゼンテーション実習、静止画像処理	3	大谷、木下、 須永、メディア 情報掛
3	11	20	インターネット情報検索1	インターネットからの情報の収集と吟味	5	佐々木
4	11	27	メディアコンテンツ作成2	動画画像処理	4	木下、須永、メ ディア情報掛
5	12	4	メディアコンテンツ作成3	動画画像処理	4	〃
6	12	11	インターネット情報検索2	インターネットからの情報の収集と吟味	5	佐々木

7	12	18	インターネット情報検索 3	課題発表	5	佐々木
8	1	8	まとめ	メディアコンテンツ作成(動画像) 課題発表、ネットワーク上で試験	1-5	木下、佐々木 須永、メディア 情報掛

評価方法

提出課題および第 8 回に行うネットワーク上での試験で総括的評価を行う。

留意事項

- ・入学時の案内・ガイダンス等で指定した推奨ノートパソコンに指定のソフト(Microsoft 社製 Power Point[®]は必須)をインストールして持参すること。
- ・1、2、4、5、8 回の授業は、各自、ノート PC、USB フラッシュメモリーおよびステレオイヤホンを持参すること。

担当教員のオフィスアワー

木下 淳博 教授 金 16:00-17:00 kinoshita.emdv@tmd.ac.jp

杉本 久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健材料力学
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	口腔保健材料力学(1) 1 学年後期・15 時間・必修 口腔保健材料力学(2) 3 学年後期・15 時間・必修 } 2 単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、岩崎直彦
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第1講義室

口腔保健材料力学の構成ユニット

1 年次: 口腔保健材料力学(1)

3 年次: 口腔保健材料力学(2)

口腔保健材料力学(1)

学習目標(GIO)

材料に引張、圧縮を加えたときに内部で生じる応力と変形について理解し、歯科で用いられている材料の特徴を説明する。

到達目標(SBOs)

1. 基本単位を説明し、長さを測定する。
2. 材料力学に必要な基礎知識を理解する。
3. 応力-ひずみ線図を理解する。
4. 引張、圧縮応力を受けた時の棒の変形を理解する。
5. 高分子材料の特徴を概説する。
6. 金属材料の特徴を概説する。
7. セラミック材料の特徴を概説する。
8. 複合材料の特徴を概説する。
9. 歯科材料の機械的性質の評価方法を説明する。

授業計画 1 学年後期・8 回・(1 回の授業時間: 90 分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	11	27	基本単位と基本的な測定機器	SI 単位、長さの測定	1	高橋、岩崎
2	12	4	材料力学概説	材料力学を学ぶ目的、力のモーメント	2, 4	高橋

				トのつり合い		
3	12	11	材料力学で使う数式	よく使う数学公式, 荷重の種類	2, 4	高橋
4	12	18	応力ひずみ線図	応力とひずみの定義、応力ひずみ線図	3, 4	〃
5	1	8	許容応力と安全率 高分子材料概論	許容応力と安全率の考え方 歯科で用いられている高分子材料	2, 4	〃
6	1	15	金属材料概論 セラミック材料概論 複合材料概論	歯科で用いられている金属材料概論 歯科で用いられているセラミック材料 歯科で用いられている複合材料	6-8	〃
7	1	22	歯科材料の特性比較 歯科材料の基礎的性質	歯質と歯科材料の特性の比較 歯科材料の機械的性質	5-9	〃
8	1	29	機械的性質の評価方法	粘弾性、物理的性質	1, 9	〃

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・口腔保健材料力学(1)は1学年後期に試験を行い、合格しなければならない。
- ・口腔保健材料力学の最終判定は口腔保健材料力学(1)、口腔保健材料力学(2)の成績を合わせて行う。

教科書

「スタンダード歯科理工学 ―生体材料と歯科材料―」第4版 鈴木一臣ほか編 学研書院、2011

参考図書等

- ・「コア歯科理工学」小倉英夫、高橋英和、宮崎 隆、小田 豊、榎本貢三、小園凱夫編 医歯薬出版 2008
- ・「JSME テキストシリーズ 材料力学」日本機械学会編 丸善 2007
- ・「JSME テキストシリーズ 演習:材料力学」日本機械学会編 丸善 2007
- ・「よくわかる材料力学」辻 智章 講談社 2002

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

高橋 英和 教授 月、火 16:00-18:00 takahashi.bmoe@tmd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能 I
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・30 時間・必修 2 単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、坂本裕次郎(口腔保健衛生基礎学分野)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第1講義室

学習目標(GIO)

人体の構造と機能ならびにその分子的基盤を学ぶことにより、生命が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルに至るまで理解する。さらに、機能の異常と疾患、使用される薬物について概要を理解する。

到達目標(SBOs)

1. 生命の基本単位である細胞の構造、構成要素とその働きを説明する。
2. 人体の構成ならびに構造、機能の概要を理解する。
3. 上皮組織、支持組織、筋組織および神経組織の構成成分、構造および機能の概要を理解する。
4. 骨格系の構成と骨の代謝について理解する。
5. 全身の筋の構造と筋収縮のメカニズムについて理解する。
6. 運動器系の構成と機能、およびその疾患について説明する。
7. 循環器系の構成と機能、その疾患について理解する。
8. 血液成分と働きおよびその疾患について理解する。
9. 呼吸器系の構成と機能、およびその疾患について説明する。
10. 末梢神経系および中枢神経系の構成と機能、およびその疾患について説明する。
11. 感覚系の構成と機能について説明する。
12. 消化器系の構成と機能について理解する。感覚器系の構成と機能、およびその疾患について説明する。
13. 泌尿器系の構成と機能、尿の生成機序とその疾患について説明する。
14. 生体の恒常性維持機構(体温調節、体液組成および体液量の調節)を概説する。
15. 内分泌系の構成、機能、およびホルモンの作用とその異常について説明する。
16. 様々な疾患に使用される薬物について概要を理解する。

授業計画 1 学年後期・30 時間・必修 2 単位(1回の授業時間:90分)

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	2	はじめに、細胞の構造と機能	人体の構成、細胞小器官、細胞の基本的機能	1, 2	杉本
2	10	9	組織	上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織	3	坂本

3	10	16	骨格系	骨の形成、頭蓋骨、体幹骨、上肢骨、下肢骨、骨の代謝と疾患	4	坂本
4	10	23	筋の構造	筋の形状と分類、体の各部位の筋	5	〃
5	10	30	筋の機能	筋の収縮と代謝、骨格筋収縮のタイプ、筋電図	5, 6	杉本
6	11	6	運動器系	運動(反射と随意運動)、運動器系の疾患	6, 16	〃
7	11	13	循環器系の構造	心臓の構造、血管の構造、動脈系、静脈系、リンパ系	7	坂本
8	11	20	循環器系の働きと血液	心臓と血管の働き、心臓疾患、血液の成分と働き、血液の疾患と薬物	7, 8, 16	杉本
9	11	27	呼吸器系	呼吸器の構成、外呼吸と内呼吸、呼吸運動、ガス交換、呼吸の調節、肺の疾患と薬物	9, 16	〃
10	12	4	神経系の構成と機能	神経系の構成、中枢神経系、末梢神経系、自律神経系、神経伝導路、神経系の疾患と薬物	10, 16	〃
11	12	11	感覚器系の構造と機能	感覚器の構造、感覚の基本的性質、体性・内臓感覚、特殊感覚(視覚、聴覚、平衡感覚)	11	〃
12	12	18	消化器系の構造	消化器系の構造	12	坂本
13	1	8	消化と吸収	胃・小腸・大腸における消化と吸収、排便、消化器系の疾患と薬物	12, 16	杉本
14	1	15	排泄 体温調節	尿の生成と排尿 体熱の産生と放散、体温調節、発熱と解熱	13, 14	〃
15	1	22	内分泌	内分泌器官とホルモン、内分泌異常と薬物	15, 16	〃

評価方法

- ・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「解剖生理学」 高野廣子著 南山堂
- ・「図解生理学」第2版 中野昭一編 医学書院

- ・「カラーで学ぶ解剖生理学」 ゲーリー・A・ティボドー、ケビン・T・パットン著 コメディカルサポート研究会訳 医学書院
- ・「標準生理学」第5版 本郷利憲、廣重力監修 医学書院
- ・「基礎歯科生理学」 第5版 森本俊文、山田好秋編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

杉本 久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

坂本 裕次郎 講師 随時 y.sakamoto.ombi@ymd.ac.jp

第 2 学年 履修科目

科目名	形態認識造形学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	1 学年後期・45 時間・必修 2 学年前期・15 時間・必修 2 学年後期・30 時間・必修 } 2 単位
科目責任者	安江 透
授業担当者	安江 透、岩崎直彦、富川紘一
主な授業場所	口腔保健工学専攻第1実習室

学習目標(GIO)

口腔保健工学の実践に必要な天然歯牙の形態を把握して彫刻再現できる技術力を養い、数々の修復物製作における基本的造形能力を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 彫刻実習の目的を説明する。
2. 歯科技工実習で使用するインストゥルメントの使用法を習得する。
3. 模刻による歯型彫刻法を習得する。
4. 歯冠から歯根への移行形態の重要性を説明する。
5. 上下顎小臼歯の形態的特徴を理解し、彫刻により再現する。
6. 上下顎大臼歯の形態的特徴を理解し、彫刻により再現する。
7. 天然歯の形態的特徴を記憶し、短時間の彫刻で精密に再現する。

授業計画

2 学年前期・15 時間 ・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
1	4	24	歯型彫刻の概要	実習内容説明、器具および実習 施設使用説明 歯型彫刻デモ	1-4	安江、岩崎、 富川
2	6	18	1.2 倍歯模刻	上顎第一小臼歯	3-5	〃
3	6	18	〃	上顎第二小臼歯	3-5	〃
4-5	6	19	〃	〃	3-5	〃
6-7	6	26	〃	上顎第一大臼歯	3,4,6	〃
8	7	3	〃	〃	3,4,6	〃
9	7	3	〃	下顎第一小臼歯	3-5	〃

10	7	10	1.2 倍歯模刻	下顎第一小臼歯	3-5	安江、岩崎、 富川
11	7	10	〃	下顎第二小臼歯	3-5	〃
12	7	17	〃	〃	3-5	〃
13	7	17	〃	下顎第一大臼歯	3,4,6	〃
14-15	7	24	〃	〃	3,4,6	〃

2 学年後期・30 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
16-17	10	2	天然歯模刻	上顎中切歯	7	安江、富川
18-19	10	9	〃	上顎側切歯	7	〃
20-21	10	16	〃	上顎犬歯	7	〃
22-23	10	23	〃	下顎中切歯	7	〃
24-25	10	30	〃	下顎側切歯	7	〃
26-27	11	6	〃	下顎犬歯	7	〃
28-29	11	13	〃	上顎第一小臼歯	7	〃
30-31	11	27	〃	上顎第二小臼歯	7	安江、岩崎、 富川
32-33	12	4	〃	上顎第一大臼歯	7	〃
34-35	12	11	〃	上顎第二大臼歯	7	〃
36-37	12	18	〃	下顎第一小臼歯	7	〃
38-39	1	8	〃	下顎第二小臼歯	7	〃
40-41	1	15	〃	下顎第一大臼歯	7	〃
42-43	1	22	〃	下顎第二大臼歯	7	〃
44-45	1	29	予備日	予備日	1-7	〃

評価方法

- ・彫刻作品、および平素の実習態度によって評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「歯の解剖学」第 22 版 藤田恒太郎 原著、桐野 忠大 共著 金原出版
- ・新歯科技工士教本「歯の解剖学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科技工別冊「審美歯科治療のための天然歯フォトギャラリー」 Jan Hajt6 著 大島一成編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

安江 透	講師	随時	yasue.sdt@tmd.ac.jp
岩崎 直彦	助教	随時	iwasaki.bmoe@tmd.ac.jp
富川 紘一	助教	随時	fukawa.peoe@tmd.ac.jp

科目名	ヘルスプロモーション
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2 学年前期・30 時間・必修 2 単位
科目責任者	杉本久美子、大木明子(PBL テュートリアル)
授業担当者	杉本久美子、大木明子、寺岡加代(口腔健康教育学分野)、小野寺光江(健康支援口腔保健衛生学分野)、鈴木聖一(顎顔面矯正学分野)、山下勘二(非常勤歯科技工士)、西澤隆廣(東京都歯科技工士会)、医歯学総合研究科大学院生、口腔保健学科教員、歯学科教員
主な授業場所	口腔保健学科第3講義室、歯学部演習室等(PBL テュートリアル)、口腔保健工学専攻第4講義室、歯学部講義室

学習目標(GIO)

ヘルスプロモーションの変遷を知るとともに、活動のプロセスを学び、口腔保健の専門家のヘルスプロモーションにおける役割を理解する。

到達目標(SBOs)

1. ヘルスプロモーションの概要を説明する。
2. WHO の健康戦略を説明する。
3. ヘルスプロモーションの展開過程(計画・実施・評価)を説明する。
4. 保健行動の理論とモデルを説明する。
5. 健康保健政策におけるヘルスプロモーションの役割を説明する。
6. 人々の健康における問題を自ら発見し、解決する能力を習得する。
7. 世界各国の文化および歯科事情を学び、世界のヘルスプロモーションについて考察する。
8. 健康に関連するデータの集計と統計処理の基本的方法を理解する。

授業計画 2 学年前期・30 時間・必修 2 単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	4	11	オリエンテーション PBL ガイダンス	ヘルスプロモーション概要、WHO の健康戦略 PBL の学習目標、学習方法について	1, 2, 5	寺岡 小野寺
3	4	11	セッション1	シナリオ 1	6	口腔保健 学科教員
4-6	4	18	セッション2	シナリオ1の学習結果発表・討論 シナリオ 2	6	口腔保健 学科・歯学

						科教員
7-9	4	25	セッション3	シナリオ2の学習結果発表・討論 シナリオ3	6	口腔保健 学科教員
10-12	5	2	セッション4	シナリオ3の学習結果発表・討論 全体発表の準備	6	〃
13, 14	5	9	全体発表	各班の学習結果発表・討論	6	〃
15	5	9	保健行動の理論・ヘル スプロモーションの役割	保健行動の理論とモデル、口腔 保健政策におけるヘルスプロモ ーションの役割	3-5	寺岡
16	5	16	ヘルスプロモーションと 歯科技工士1	ヘルスプロモーションにおける歯 科技工士の役割: 東京都歯科技 工士会の立場から	1, 5	西澤
17	5	23	ヘルスプロモーションと 歯科技工士2	ヘルスプロモーションにおける歯 科技工士の役割: 本学出身者の 立場から	1, 5	山下
18	5	24	世界の歯科事情1	世界の歯科事情	7	大学院生、 鈴木
19, 20	5	30	データの入力と集計1	MS Excel [®] を用いた疫学デー タの入力・集計、グラフの作成	8	杉本、大木
21	5	31	世界の歯科事情2	世界の歯科事情	7	大学院生、 鈴木
22, 23	6	6	データの統計処理1	MS Excel [®] を用いたデータの統 計分析	8	杉本、大木
24	6	7	世界の歯科事情3	世界の歯科事情	7	大学院生、 鈴木
25, 26	6	13	データの入力と集計2	MS Excel [®] を用いたアンケートデ ータの入力・集計、グラフの作成	8	杉本、大木
27	6	14	世界の歯科事情4	世界の歯科事情	7	大学院生、 鈴木
28, 29	6	20	データの統計処理2	MS Excel [®] を用いたデータの統 計分析	8	杉本、大木
30	6	21	世界の歯科事情5	世界の歯科事情	7	大学院生、 鈴木

評価方法

- ・PBL:セッションごとにチューターによる形成的評価を行う。
- ・世界の歯科事情: レポートによる総合評価を行う。5 回のうち 4 回以上の出席が必要。
- ・出席状況、授業態度、レポート、筆記試験を総合的に評価し合否を判定する。

参考図書等

- ・「実践 ヘルスプロモーション」 LW.グリーン、MW.クロイター著 神馬征峰訳 医学書院
- ・「健康教育・ヘルスプロモーションの評価」 武藤孝司、福渡靖著 篠原出版
- ・「やさしく学ぶ統計学 Excel によるアンケート処理」 石村貞夫、加藤千恵子、劉晨著 東京図書
- ・「Excel による統計入門-Excel2007 対応版」 縄田和満著 朝倉書店

留意事項

- ・1～15 回の授業は口腔保健衛生学専攻と合同授業を行う。
- ・PBL テュートリアルブックをよく読んで、グランドルールを厳守すること。
- ・後半の「世界の歯科事情」は、歯学科のモジュール「学年混合選択セミナー」、ユニット「世界の歯科事情」を受講する。
- ・事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

科目責任者のオフィスアワー

杉本久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp
大木明子 准教授 火、水、金 16:00-18:00 moki.mfoe@tmd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能Ⅰ
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2 学年前期・30 時間・必修 2 単位
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、坂本裕次郎(口腔保健衛生基礎学分野)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第4講義室

学習目標(GIO)

人体の構造と機能ならびにその分子的基盤を学ぶことにより、生命が営まれるメカニズムを分子レベルから個体レベルに至るまで理解する。さらに、機能の異常と疾患、使用される薬物について概要を理解する。

到達目標(SBOs)

1. 生命の基本単位である細胞の構造、構成要素とその働きを説明する。
2. 人体の構成ならびに構造、機能の概要を理解する。
3. 上皮組織、支持組織、筋組織および神経組織の構成成分、構造および機能の概要を理解する。
4. 骨格系の構成と骨の代謝について理解する。
5. 全身の筋の構造と筋収縮のメカニズムについて理解する。
6. 運動器系の構成と機能、およびその疾患について説明する。
7. 循環器系の構成と機能、その疾患について理解する。
8. 血液成分と働きおよびその疾患について理解する。
9. 呼吸器系の構成と機能、およびその疾患について説明する。
10. 末梢神経系および中枢神経系の構成と機能、およびその疾患について説明する。
11. 感覚系の構成と機能について説明する。
12. 消化器系の構成と機能について理解する。感覚器系の構成と機能、およびその疾患について説明する。
13. 泌尿器系の構成と機能、尿の生成機序とその疾患について説明する。
14. 生体の恒常性維持機構(体温調節、体液組成および体液量の調節)を概説する。
15. 内分泌系の構成、機能、およびホルモンの作用とその異常について説明する。
16. 様々な疾患に使用される薬物について概要を理解する。

授業計画 2 学年前期・30 時間・必修 2 単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	4	11	はじめに、細胞の構造と機能	人体の構成、細胞小器官、細胞の基本的機能	1, 2	杉本
3, 4	4	18	組織	上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織	3	坂本

5, 6	4	23	骨格系	骨の形成、頭蓋骨、体幹骨、上肢骨、下肢骨、骨の疾患	4	坂本
7, 8	5	2	筋の構造	筋の形状と分類、体の各部位の筋	5	〃
9, 10	5	9	筋の機能	筋の収縮と代謝、骨格筋収縮のタイプ、筋電図	5	杉本
11	5	14	運動器系	運動(反射と随意運動)、運動器系の疾患	6, 16	〃
12	5	14	循環器系の構造	心臓の構成、血管の構造	7	坂本
13	5	21	〃	動脈系、静脈系、リンパ系	7	〃
14	5	21	循環器系の機能	心臓の構造と働き、心臓疾患	7, 16	杉本
15, 16	5	30	循環器系の機能と血液	血管・リンパ系の機能、血液成分と働き、血液の疾患と薬剤	7, 8, 16	〃
17, 18	6	6	呼吸器系の構造と機能	呼吸器の構成、外呼吸と内呼吸、呼吸運動、ガス交換、呼吸の調節、肺の疾患と薬剤	9, 16	〃
19, 20	6	13	神経系の構成と機能	神経系の構成、興奮の伝導と伝達、末梢神経系、自律神経系	10	〃
21	6	20	〃	中枢神経系、記憶と学習、神経系の疾患と薬剤	10, 16	〃
22	6	20	感覚機能	感覚の基本的性質、体性・内臓感覚、	11	〃
23	6	27	感覚器の構造	外皮、感覚器の構造	11	坂本
24	6	27	消化器系の構造	消化器系の構造	12	〃
25	7	4	感覚機能	特殊感覚(視覚、聴覚、平衡感覚)	11	杉本
26	7	4	消化・吸収機能	胃・小腸・大腸における消化と吸収	12	〃
27	7	11	〃	胃・小腸・大腸における消化と吸収、排便、消化器系の疾患と薬剤	12, 16	〃
28	7	11	排泄	尿の生成と排尿、泌尿器系の疾患	13, 14, 16	〃
29	7	18	体温調節	体熱の産生と放散、体温調節、発熱と解熱	14, 16	〃
30	7	18	内分泌	内分泌器官とホルモン、内分泌異常と薬剤	15, 16	〃

評価方法

- ・期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「解剖生理学」 高野廣子著 南山堂
- ・「図解生理学」第2版 中野昭一編 医学書院
- ・「カラーで学ぶ解剖生理学」 ゲーリー・A・ティボドー、ケビン・T・パットン著 コメディカルサポート研究会訳 医学書院
- ・「標準生理学」第5版 本郷利憲、廣重力監修 医学書院
- ・「基礎歯科生理学」 第5版 森本俊文、山田好秋編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

杉本 久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp

坂本 裕次郎 講師 随時 y.sakamoto.ombi@ymd.ac.jp

科目名	人体の構造と機能Ⅱ
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2 学年前期・30 時間・必修 } 5 単位 2 学年後期・45 時間・必修 }
科目責任者	杉本久美子
授業担当者	杉本久美子、安江透、富川紘一、田畑純(硬組織構造生物学分野)、寺島達夫(顎顔面解剖学分野)、坂本裕次郎(口腔保健衛生基礎学分野)、土橋なつみ・松川紗都(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第4講義室、口腔保健工学専攻第1実習室、医学部解剖実習室

学習目標(GIO)

顎・顔面・口腔領域の組織、器官の構造と機能およびその発生と成長の過程について学ぶとともに、顎・顔面・口腔領域の疾患について学び、口腔と全身の構造と機能の関連について理解する。

到達目標(SBOs)

1. 歯の形態、構成成分と機能およびその疾患について説明する。
2. 歯の発生、成長過程と関連疾患について理解する。
3. 歯周組織の形態、構成成分と機能およびその疾患について説明する。
4. 歯周組織の発生、成長過程と関連疾患について理解する。
5. 口腔諸器官の構造、構成分子と機能および発生と成長について説明する。
6. 口腔領域の体性感覚に関わる構造と機能、ならびに疾患について理解する。
7. 頭頸部の主要な骨の形態、発生と成長およびその異常について説明する。
8. 頭頸部の主要な筋の形態と機能を説明する。
9. 頭頸部の主な神経とその働きを説明する。
10. 口腔領域に分布する脈管系を理解する。
11. 咀嚼運動のしくみを理解する。
12. 顎反射のしくみとその役割について理解する。
13. 嚥下・吸引・嘔吐のしくみと関連疾患について説明する。
14. 唾液腺の構造と分泌機構および唾液の成分とその作用、ならびに関連疾患について理解する。
15. 味覚・嗅覚に関わる構造と機能、ならびに疾患について理解する。
16. 発声・構音のしくみを説明する。
17. 口腔と全身の構造と機能の関連について理解する。

授業計画

2 学年前期・30 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	4	10	歯の形態 1	歯の定義、歯種と名称、表記法など	1	田畑
3, 4	4	16	歯の形態 2	方向用語、部位用語	1	〃
5, 6	4	17	歯の形態 3	上下左右の鑑別	1	〃
7, 8	4	25	永久歯の形態 1	切歯、犬歯	1	寺島
9, 10	5	7	永久歯の歯型彫刻	切歯・犬歯の歯型彫刻	1	安江、富川
11, 12	5	16	永久歯の形態 2	小臼歯	1	寺島
13, 14	5	23	永久歯の形態 3	大臼歯	1	〃
15, 16	5	28	永久歯の歯型彫刻	小臼歯・大臼歯の歯型彫刻	1	安江、富川
17, 18	6	4	乳歯の形態 1	乳歯の特色、乳切歯	2	寺島
19, 20	6	12	乳歯の形態 2	乳犬歯、乳臼歯	2	〃
21, 22	6	25	歯の発生	歯の発生、歯の異常	2	田畑
23, 24	7	2	歯の組織	エナメル質、象牙質	1	〃
25, 26	7	9	歯の構成成分、歯の機能	歯の構成成分、歯髄の働き、歯の感覚	1	杉本
27, 28	7	23	歯の周囲組織	セメント質、歯槽骨	2	田畑
29	7	30	永久歯歯型彫刻	切歯・犬歯の歯型彫刻	1	安江、富川
30	7	30	まとめ	歯の形態と機能のまとめ	1	杉本

2 学年後期・45 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
31-33	10	1	歯周組織	歯周組織と加齢変化	3, 4	田畑
34-36	10	15	口腔と口腔付近の組織	口腔前庭(口唇、頬、歯肉)、固有口腔(口蓋、口腔底、舌)、咽頭、喉頭	5	〃
37, 38	10	22	歯周組織の機能	歯周組織の構成成分と働き、歯根膜の感覚	3, 17	杉本
39	10	22	口腔の感覚	口腔粘膜の感覚と受容器	6, 17	〃
40	10	29	〃	〃	6, 17	〃

41, 42	10	29	頭蓋の骨	頭蓋骨、口腔を構成する骨、頭蓋の全景	7	坂本
43, 44	11	5	頭頸部の筋	顔面筋(表情筋)、咀嚼筋、舌筋、舌骨筋群(舌骨上筋群、舌骨下筋群)、頸部の筋	8	〃
45	11	5	顎関節	顎関節の構造と機能	7, 8	〃
46, 47	11	12	頭頸部の骨と筋肉	頭頸部の骨と筋肉の観察	7, 8	〃
48	11	12	頭頸部の神経	脳神経、頭頸部に分泌する脊髄神経、自律神経	9	〃
49	11	26	〃	〃	9	〃
50, 51	11	26	口腔付近に分布する脈管系	動脈系、静脈系、リンパ系	10	〃
52-54	12	3	顔面と口腔の発生	鰓弓の形成、顔面・口唇・口蓋・鼻腔の形成、舌・腺の形成、癒合不全による先天異常	5	田畑
55, 56	12	10	咬合と咀嚼・吸綴	下顎の運動、顎反射、摂食行動、咀嚼能力、吸綴	11, 12, 17	杉本
57	12	10	〃	咀嚼筋筋電図測定、プレスケールによる咬合バランス測定	11, 12, 17	杉本、土橋
58, 59	12	17	嚥下と嘔吐	嚥下・吸引・嘔吐のしくみと関連疾患	13, 17	杉本
60	12	17	嚥下機能評価	嚥下機能評価の実際:RSST、水飲みテストなど	13, 17	杉本、土橋、松川
61, 62	1	7	唾液	唾液腺、唾液の分泌機構、唾液の性状および成分と機能、唾液と疾患	14, 17	杉本
63	1	7	〃	唾液を利用した口腔状態の評価	14, 17	杉本、土橋、松川
64, 65	1	21	味覚と嗅覚	味覚、嗅覚	15, 17	杉本
66	1	21	〃	味覚・嗅覚検査	15, 17	杉本、土橋
67	1	28	発声	発声のしくみ、声の生成、言語音の生成、歯・口腔の病態と発音	16, 17	杉本
68, 69	1	28	まとめ	口腔の構造と機能のまとめ	17	〃
70-72	2	4	人体解剖の見学 1	人体解剖の見学	17	坂本
73-75	2	5	人体解剖の見学 2	頭頸部解剖の見学	17	〃

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「基礎歯科生理学」 第5版 森本俊文、山田好秋編 医歯薬出版
- ・新歯科技工士教本「歯の解剖学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版
- ・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版
- ・「歯牙解剖 歯型彫刻」 織田正豊ほか クインテッセンス出版
- ・「歯の解剖学入門」 赤井三千男編 医歯薬出版
- ・「口腔の発生と組織」 第2版 相山誉夫ほか 南山堂
- ・「口腔組織・発生学」 脇田稔ほか 医歯薬出版
- ・「新解剖学」 改訂第6版 加藤征監修 日本医事新報社
- ・「新組織学」 改訂第5版 野上晴雄監修 日本医事新報社

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

杉本 久美子 教授 火、木 16:00-18:00 ksugimoto.fohc@tmd.ac.jp
田畑 純 准教授 随時 tabatamj.bss@tmd.ac.jp
寺島 達夫 准教授 随時(事前に連絡を取る) t.terashima.mfa@tmd.ac.jp
坂本 裕次郎 講師 随時 y.sakamoto.ombi@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健理工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2 学年前期・45 時間・必修 3 単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、岩崎直彦、宇尾基弘・本郷敏雄((先端材料評価学分野)、原田直子(う蝕制御学分野)、宮崎 隆(昭和大学)、中嶋 裕(明海大学)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第4講義室

学習目標(GIO)

歯科技工に必要な歯科材料および器械の知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 模型用材料の組成と特徴を説明する。
2. 印象材の組成と特徴を説明する。
3. 印象材と模型材の関係を説明する。
4. 歯科用原型材料の種類、用途、特徴を説明する。
5. レジン材料の成形法と特徴を説明する。
6. レジンの種類と組成を説明する。
7. レジン重合時の寸法変化と適合性を説明する。
8. 審美修復に必要な色彩に関する知識を説明する。
9. 硬質レジンの特徴を説明する。
10. 歯科用合金の種類、特徴を説明する。
11. 陶材の種類と成分を説明する。
12. セラミックスの加工法を説明する。
13. 加工硬化と熱処理を説明する。
14. 切削と研磨の原理を説明する。
15. 成形修復材料の特徴を説明する。
16. 接着の機序と接着剤の成分を説明する。
17. 補綴物の安定性を説明する。
18. 歯科材料の安全性を説明する。

授業計画 2 学年前期・45 時間・必修 3 単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-3	4	13	合金の特徴	歯科用合金の種類、特徴	10	高橋
4	4	13	加工硬化	加工硬化の原理	13	〃

5	4	16	熱処理	熱処理の原理と処理方法	13	高橋
6-8	4	20	接 着	接着の機序と接着剤	15	〃
9, 10	4	23	模型材と石膏	模型材の種類、石膏の種類	1	〃
11, 12	4	27	石 膏	硬化機序、硬化膨張、硬化時間	1	〃
13	5	1	石 膏	圧縮強さ、硬化に与える因子	1	〃
14	5	7	印 象	印象材の種類、特徴	2	〃
15, 16	5	11	印 象	ハイドロコロイド印象材、ゴム質印象材	2	〃
17	5	14	印象と模型材	非弾性印象材、石膏と印象材の相互作用	2	〃
18	5	21	ワックス 切削と研磨	歯科用原型材料の種類、用途、特徴 切削と研磨の原理	4, 14	〃
19	6	11	成形修復材料	成形修復材料の種類と特徴	15	〃
20	6	22	高分子概論	高分子の特徴、種類	6	〃
21, 22	6	22	加熱重合レジン	加熱重合レジンの成形法と特徴	5, 6, 7	〃
23	6	25	加熱重合レジン	加熱重合レジンの寸法変化	7	〃
24, 25	6	25	常温重合レジン	常温重合レジンの成形法と特徴	5, 6, 7	〃
26	7	2	色彩に関する知識	表色系、視感比色法	8	〃
27, 28	7	6	硬質レジン	硬質レジンの摩耗性、コンポジットレジンとの比較	5, 6, 9	〃
29, 30	7	6	CAD/CAM の基礎	歯科用 CAD/CAM の基礎	12, 14	宮崎
31-33	7	9	セラミックスの基礎	セラミックスの特徴	11	宇尾
34-36	7	13	セラミックスの加工	セラミックスの加工	12	高橋
37-39	7	20	補綴物の安全性	補綴物の安全性	17	本郷
40, 41	7	20	セラミックスの応用	オールセラミックス	12	中畠
42	7	23	生体材料の安全性	薬事法と歯科材料	17	原田
43-45	7	27	生体材料の安全性	生体材料の安全性	18	本郷

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

教科書

「スタンダード歯科理工学 ―生体材料と歯科材料―」第4版 鈴木一臣ほか編 学研書院 2011

参考図書等

- ・「コア歯科理工学」 小倉英夫、高橋英和、宮崎 隆、小田 豊、榎本貢三、小園凱夫編 医歯薬出版 2008
- ・「臨床歯科理工学」 宮崎 隆、中嶋 裕、河合達志、小田 豊編 医歯薬出版 2006
- ・「歯科理工学教育用語集」第2版 日本歯科理工学会編 医歯薬出版 2009
- ・「歯科技工士教本」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2011

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

高橋 英和 教授 月、火 16:00-18:00 takahashi.bmoe@tmd.ac.jp

科目名	口腔保健理工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	2 学年前期・90 時間・必修 2 単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、岩崎直彦、春日祐太・中野文夫・竹内理恵子(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第4講義室、第1実習室、第4実習室

学習目標(GIO)

歯科技工で使用する歯科材料の性質を適切に測定する。

到達目標(SBOs)

1. ワイヤーの引張試験を行う。
2. 金属材料の硬さを測定する。
3. 各種材料の熱膨張を測定する。
4. 金属の加工硬化と再結晶、時効硬化を測定する。
5. 石膏の硬化時間、温度変化、硬化膨張を測定する。
6. 各種印象材で制作した模型の寸法精度と細線再現性を測定する。
7. 成形修復用材料を適切に取り扱う。
8. 旋盤・ボール盤・フライス盤で加工する。
9. 歯科用レジン重合時の発熱と寸法変化を測定する。
10. 硬質レジンの照射量と強さの関係を測定する。
11. 歯科用セラミックスの焼成時の寸法変化と透明性を測定する。
12. 歯科材料メーカーを見学し、技工用材料の製造過程を理解する。

授業計画 2 学年前期・90 時間・必修 2 単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-4	4	9	引張試験	ワイヤーの引張試験、材料試験での特性値	1	高橋、岩崎
5-7	4	13	硬さ試験	硬さ測定、加工による硬さの変化	2	〃
8-11	4	16	熱膨張	各種歯科材料の加熱による寸法変化	3	〃
12-15	4	20	鍛造	炭素鋼の鍛造、焼入れ、焼戻し	4	〃
16-18	4	23	模型材	エポキシ樹脂の支台歯模型製作	6	〃
19-23	4	27	石膏	石膏の硬化時間、硬化膨張、発熱	5	〃

24-27	5	1	石 膏	練和溶液が石膏硬化に及ぼす影響 圧縮試験片の製作	5	高橋、岩崎
28-31	5	7	印 象	ハイドロコロイド印象材と模型	6	〃
32-36	5	11	印 象 石 膏	ゴム質印象材と模型 石膏の圧縮試験	6 5	高橋、岩崎 中野
37-40	5	14	印 象	複印象と複模型	6	高橋、岩崎
41-44	6	11	成形修復材料	常温重合レジン、コンポジットレジン、 グラスアイオノマーセメント、各種合 着用セメント	7	〃
45-47	6	15	切削加工の基礎	切削機械の種類・使用法	8	〃
48-51	6	18	切削加工の基礎	曲げ試験片作製用金型の作製 旋 盤加工	8	〃
52-55	6	22	切削加工の基礎	曲げ試験片作製用金型の作製 フラ イス盤加工	8	〃
56, 57	6	25	切削加工の基礎	仕上げ、試験片作製・曲げ試験	8	〃
58-64	6	29	加熱重合レジン	餅状期の観察、パターン作製、埋没	9	岩崎、春日 竹内
65-68	7	2	加熱重合レジン	レジン填入、重合時の発熱測定	9	〃
69-71	7	6	加熱重合レジン	割り出し、重合体の寸法測定	9	高橋、岩崎
72, 73	7	9	硬質レジン	光照射量と硬質レジンの強さ	10	〃
74-77	7	13	セラミックス	セラミックスの焼成収縮測定 曲げ試験片の製作	11	高橋、岩崎 竹内
78, 79	7	20	セラミックス	曲げ試験片の研磨	11	岩崎、高橋
80-82	7	23	セラミックス	セラミックスの曲げ試験	11	〃
83-86	7	27	歯科材料の製作	歯科メーカー見学(トクヤマデンタル)	12	〃
87-90	7	30	まとめ	口腔保健歯科理工学のまとめ	1-12	高橋

印象、石膏、成形修復材料の実習の一部は口腔保健衛生学専攻の学生と合同で行う。

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

教科書

「スタンダード歯科理工学 ―生体材料と歯科材料―」第4版 鈴木一臣ほか編 学研書院 2011

参考図書等

- ・「コア歯科理工学」 小倉英夫、高橋英和、宮崎 隆、小田 豊、榎本貢三、小園凱夫編 医歯薬出版 2008
- ・「臨床歯科理工学」 宮崎 隆、中嶋 裕、河合達志、小田 豊編 医歯薬出版 2006
- ・「歯科理工学教育用語集」第2版 日本歯科理工学会編 医歯薬出版 2009
- ・「歯科技工士教本」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2011

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

高橋 英和 教授 月、火 16:00-18:00 takahashi.bmoe@tmd.ac.jp

岩崎 直彦 助教 月、火 16:00-18:00 iwasaki.bmoe@tmd.ac.jp

科目名	精密鑄造学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2学年前期・15時間・必修1単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、岩崎直彦
主な授業場所	口腔保健工学専攻第4講義室

学習目標(GIO)

歯科精密鑄造の原理と注意点を理解する

到達目標(SBOs)

1. 鑄造用合金の特徴を説明する。
2. 鑄造用原型の素材と性質を説明する。
3. 埋没材の成分と特徴を説明する。
4. 金属の融解法を説明する。
5. 鑄造機の特徴を説明する。
6. 鑄造欠陥を説明する。
7. 鑄造体の寸法変化を説明する。
8. 金属の接合を説明できる。

授業計画 2学年前期・15時間・必修1単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-3	5	18	鑄造用合金	鑄造概論, 鑄造用合金の特徴	1	高橋
4	5	21	鑄造用原型	鑄造用原型の素材と特徴	2	高橋
5-7	5	25	鑄造用埋没材	鑄造用埋没材の組成と特徴	3	高橋
8	5	25	金属の融解	金属融解の熱源	4	高橋
9	5	28	金属の融解	金属融解の雰囲気	4	高橋
10	6	8	鑄造機の特徴	鑄込み方法, 融解法との組合せ	5	高橋
11	6	8	鑄造欠陥	鑄造欠陥の種類と原因	6	高橋
12	6	15	鑄造精度	鑄造精度に及ぼす因子	7	高橋
13, 14	6	15	接合	埋没ろう付け, 自在ろう付け, 溶接	8	高橋
15	6	18	鑄造のまとめ	歯科精密鑄造のまとめ	1-8	高橋、岩崎

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

教科書

「スタンダード歯科理工学 ―生体材料と歯科材料―」第4版 鈴木一臣ほか編 学研書院 2011

参考図書等

- ・「コア歯科理工学」小倉英夫、高橋英和、宮崎 隆、小田 豊、榎本貢三、小園凱夫編 医歯薬出版、2008
- ・「臨床歯科理工学」宮崎 隆、中嶋 裕、河合達志、小田 豊編 医歯薬出版、2006
- ・「歯科理工学教育用語集」第2版 日本歯科理工学会編 医歯薬出版、2009
- ・「歯科技工士教本」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版、2011

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

高橋 英和 教授 月、火 16:00-18:00 takahashi.bmoe@tmd.ac.jp

科目名	精密鑄造学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	精密鑄造学実習(1) 2 学年前期・30 時間・必修 精密鑄造学実習(2) 1 単位 2 学年前期・15 時間・必修 } 1 単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、岩崎直彦、安江 透、富川紘一、竹内理恵子(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室、第1実習室、第4実習室

精密鑄造学実習の構成ユニット

2 学年前期:精密鑄造学実習(1)

2 学年前期:精密鑄造学実習(2)

精密鑄造学実習(1)

学習目標(GIO)

歯科精密鑄造で使用する歯科材料を適切に扱え、鑄造手順を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 鑄造用原型を製作する。
2. 鑄造用原型の寸法変化を測定する。
3. 埋没材の硬化膨張を測定する。
4. 埋没材の熱膨張を測定する。
5. 歯科用合金を鑄造する。
6. 型ごと埋没法で鑄造する。
7. 鑄造体の寸法変化を測定する。
8. 歯科鑄造用金属材料製作工業を見学して製造過程を理解する。

授業計画 2 学年前期・30 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-4	5	18	ワックスの変形	ワックスの応力緩和による変形測定 冷却による寸法変化測定	2	高橋、岩崎
5-7	5	21	埋没材の硬化膨張	石膏系埋没材硬化時の寸法測定	3	〃
8-10	5	25	埋没材の硬化膨張	リン酸塩系埋没材硬化時の寸法測定	3	〃
11-14	5	28	埋没材の熱膨張	埋没材加熱時の寸法変化測定	4	〃

15-17	6	1	ワックスパターン作製、埋没	ワックスパターンの製作、埋没	1, 5	岩崎、竹内
18-19	6	1	型ごと埋没	複模型の製作、ワックスアップ、埋没	1, 6	〃
21-25	6	4	鋳造	鋳造、割り出し、寸法測定	1, 6, 7	岩崎、竹内
26-30	6	8	工場見学	歯科鋳造用金属材料製作工業見学 製造過程の理解	8	高橋、岩崎

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・精密鋳造学実習の最終判定は、精密鋳造学実習(1)、精密鋳造学実習(2)の成績を合わせて行う。

教科書

「スタンダード歯科理工学 ―生体材料と歯科材料―」第4版 鈴木一臣ほか編 学研書院 2011

参考図書等

- ・「コア歯科理工学」小倉英夫、高橋英和、宮崎 隆、小田 豊、榎本貢三、小園凱夫編 医歯薬出版 2008
- ・「臨床歯科理工学」宮崎 隆、中嶋 裕、河合達志、小田 豊編 医歯薬出版 2006
- ・「歯科理工学教育用語集」第2版 日本歯科理工学会編 医歯薬出版 2009
- ・「歯科技工士教本」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版 2011

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

高橋 英和 教授 月、火 16:00-18:00 takahashi.bmoe@tmd.ac.jp

岩崎 直彦 助教 月、火 16:00-18:00 iwasaki.bmoe@tmd.ac.jp

精密鋳造学実習(2)

学習目標(GIO)

歯科精密鋳造に必要な石膏、ワックスを用いて所定の形に成形する。

到達目標(SBOs)

1. 模刻による歯型彫刻法を習得する。
2. 歯冠から歯根への移行形態の重要性を説明する。
3. 上顎切歯の形態的特徴を理解し、彫刻により再現する。
4. 上下顎犬歯の形態的特徴を理解し、彫刻により再現する。

5. 上下顎小臼歯の形態的特徴を理解し、彫刻により再現する。

授業計画 2 学年前期・15 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	4	24	1.2 倍歯模刻	上顎中切歯模刻	1, 2, 3	安江、岩崎、 富川
2, 3	5	1	1.2 倍歯模刻	上顎中切歯模刻	1, 2, 3	〃
4, 5	5	8	1.2 倍歯模刻	上顎中切歯模刻	1, 2, 3	〃
6, 7	5	15	1.2 倍歯模刻	上顎側切歯模刻	1, 2, 3	〃
8	5	22	1.2 倍歯模刻	上顎側切歯模刻	1, 2, 3	〃
9	5	22	1.2 倍歯模刻	上顎犬歯模刻	1, 2, 4	〃
10, 11	5	29	1.2 倍歯模刻	上顎犬歯模刻	1, 2, 4	〃
12, 13	6	5	1.2 倍歯模刻	下顎犬歯模刻	1, 2, 4	〃
14, 15	6	11	1.2 倍歯模刻	上顎第一小臼歯模刻	1, 2, 5	〃

評価方法

- ・製作作品によって総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。
- ・精密鑄造学実習の最終判定は精密鑄造学実習(1)、精密鑄造学実習(2)の成績を合わせて行う。

教科書

「歯の解剖学」第 22 版 藤田恒太郎 原著、桐野 忠大 共著 金原出版

参考図書等

- ・新歯科技工士教本「歯の解剖学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版
- ・歯科技工別冊「審美歯科治療のための天然歯フォトギャラリー」Jan Hajt6 著 大畠一成編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

安江 透 講師 月、火 16:00-18:00 yasue.sdt@tmd.ac.jp

科目名	咬合学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2 学年前期・15 時間・必修 1 単位
科目責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、加藤 均(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

学習目標(GIO)

顎口腔系の形態と機能の特徴を理解し、それらを適切に回復、維持するための基礎となる咬合に関する学理と技法を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 顎口腔系の形態を説明する。
2. 顎口腔系の機能を説明する。
3. 下顎位の定義を説明し、その臨床的意義を理解する。
4. 下顎運動の種類と特徴を理解する。
5. 下顎運動範囲を説明する。
6. 咬頭嵌合位と偏心位における咬合接触を理解する。
7. 咬合干渉の種類と原因を説明する。
8. 咬合器の種類と特徴を理解する。
9. 咬合器の調節方法を理解する。
10. フェイスボウの意義を説明する。
11. 顎機能検査の種類と特徴を列挙する。
12. 顎機能障害の病因と病態を説明する。
13. 高齢者の口腔の特徴を理解する。
14. 口腔機能と全身との関わりを理解する。

授業計画 2 学年前期・15 時間・必修 1 単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	4	12	顎口腔系の形態と機能	顎口腔系概念、顎口腔系の形態的特徴と機能、基準点と基準面、咬合に係る平面	1, 2	加藤
2	4	26	下顎位 1	各下顎位の定義	3	〃
3	5	10	下顎位 2	各下顎位の臨床的意義	4	〃
4	5	31	下顎運動 1	下顎運動の種類と特徴、下顎運動範囲	4, 5	〃

5	6	7	下顎運動 2	切歯点の運動と顎頭運動の対応	5	加藤
6	6	14	歯の接触様式 1	咬頭嵌合位と偏心位における咬合接触、	6, 7	〃
7	6	21	咬合器 1	咬合器の目的、咬合器の種類と特徴	8	鈴木
8	6	27	咬合器 2	咬合器の調節方法、フェイスボウの意義	9, 10	〃
9	6	28	歯の接触様式 2	咬合干渉の種類と原因	7	加藤
10	7	4	咬合検査と顎機能障害 1	咬合検査の目的・種類・特徴、	11	鈴木
11	7	11	咬合検査と顎機能障害 2	顎機能障害への対応	12	〃
12	7	18	高齢者の口腔	高齢者の口腔の特徴	13	〃
13-15	7	25	口腔と全身	口腔機能と全身との関わり	14	〃

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・「新歯科技工士教本顎口腔機能学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「咬合学と歯科臨床～よく噛めて、噛み心地の良い咬合を目指して」中野雅徳・坂東永一編 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担教員のオフィスアワー

鈴木哲也 教授 随時 suzuki.peoe@tmd.ac.jp

科目名	有床義歯工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	有床義歯工学(1)(FD) 2 学年前期・30 時間・必修 有床義歯工学(2)(PD) 2 学年前期・15 時間・必修 2 学年後期・15 時間・必修 } 4 単位
科目責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、若林則幸・笛木賢治(部分床義歯補綴学分野)、二川浩樹(広島大学)、古屋純一・織田展輔(岩手医科大学)、渡邊竜登美・大泉 誠(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻 第4講義室

有床義歯技工学の構成ユニット

2 年次前期 : 有床義歯技工学(1)(FD:全部床義歯技工学)

2 年次前、後期: 有床義歯技工学(2)(PD:部分床義歯技工学)

有床義歯工学(1)(FD)

学習目標(GIO)

無歯顎という特殊な口腔内状態を理解し、歯の喪失により生じた形態的、機能的変化を全部床義歯により、いかに回復し、維持するかを理解するとともに、全部床義歯製作に必要な知識と技法を習得する。

到達目標(SBOs)

1. 無歯顎の特殊性を理解する。
2. 全部床義歯の製作の流れを診療室と技工室に分けて説明する
3. 無歯顎の印象採得法とそれに必要な器材を説明する。
4. 無歯顎の咬合採得法とそれに必要な器材を説明する。
5. 人工歯の種類と特徴を列举する。
6. 無歯顎の咬合理論を理解する。
7. 人工歯排列、歯肉形成法を理解し実施する。
8. 埋没と重合を理解し実施する。
9. 削合と研磨の重要性を理解し実施する。
10. リライン、リベース、修理法を説明する。
11. 義歯装着の方法と義歯管理の重要性を理解する。
12. 金属床義歯の製作法を説明する。

13. 特殊な全部床義歯を列挙する。

授業計画 2 学年前期・30 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	4	12	全部床義歯技工学概要	全部床義歯補綴の特徴、全部床義歯の構造、維持と安定、全部床義歯の製作の流れ	1, 2	鈴木
3-5	4	19	無歯顎の印象採得	印象に必要な解剖学的基礎知識、予備印象採得と研究用模型、個人トレーの製作、精密印象採得、作業用模型、特殊な印象法	3	〃
6, 7	4	26	無歯顎の咬合採得 1	無歯顎の対向関係、咬合床の製作 咬合平面、垂直的顎間関係記録法	4	〃
8, 9	5	10	無歯顎の咬合採得 2	水平的顎間関係記録法、ゴシックアーチ描記法の意義、標示線	4	〃
10-12	5	17	人工歯排列 1	審美的基礎知識、人工歯の種類 前歯部人工歯の排列	5	〃
13-15	5	24	人工歯排列 2	無歯顎の咬合理論、臼歯部人工歯の排列	5, 6, 7	〃
16	5	31	歯肉形成	研磨面形態の意義、歯肉形成法、ろう義歯の試適	7	〃
17	6	7	埋没と重合	埋没、流ろう、重合	8	〃
18	6	21	削合と研磨	義歯の取り出しと咬合器再装着 選択削合の理論と実際、自動削合 研磨の意義と実際	9	〃
19, 20	6	28	義歯の装着と管理	患者口腔内への装着、義歯管理の必要性	10	古屋、鈴木
21-23	7	5	リライン、リベース、修理	使用材料の種類と特徴、リラインとリベース、義歯修理法	11	鈴木
24, 25	7	10	全部床義歯特論	重合全部床義歯に関わる基礎研究	1	二川
26	7	12	金属床義歯	金属床の利点と欠点、鑄造金属床義歯の製作	12	鈴木
27	7	19	前期の総括	中間試験	13	〃
28-30	7	26	特殊な義歯	暫間義歯、即時義歯、治療義歯	13	〃

有床義歯工学(2)(PD)

学習目標(GIO)

部分欠損患者の病因、病態を理解しその機能回復の手段となる部分床義歯の学理と技法を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 部分的な歯の欠損とその治療の目的と意義について理解する。
2. 歯の欠損に伴う顎口腔系の変化と治療への影響を理解する。
3. 欠損歯列の様々な分類法と臨床的意義を理解する。
4. 部分床義歯の構成要素を説明する。
5. 部分床義歯に加わる力への対応を理解する。義歯の構成要素を理解する。
6. 部分床義歯の支持の考え方を理解する。
7. 部分床義歯の把持の考え方を理解する。
8. 部分床義歯の維持の考え方を理解し、維持装置の種類、構造、機能などを修得する。
9. 部分床義歯の連結子と義歯床が果たす役割を理解する。
10. 部分床義歯の装着後の変化を生体と義歯に分けて説明する。
11. 部分床義歯製作のための前処置を列挙する
12. 歯と粘膜により支持される部分床義歯の印象採得を理解する。
13. 部分床義歯の設計の基本原則と順序を理解する。
14. 部分床義歯の咬合採得の特徴を知り、術式を理解する。
15. 金属フレームワークの特徴と製作方法を理解する。
16. 人工歯排列の基本原則とろう義歯の試適時の診査項目を理解する。
17. 部分床義歯の埋没、重合方法を説明する。
18. 部分床義歯の破損や不適合と、それらに対応する修理とリラインの技法を理解する。
19. 種々の状況における部分床義歯の役割について知り、治療法を理解する。

授業計画

2 学年前期・15 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	4	10	欠損に由来する口腔の変化	歯の欠損による顎口腔系組織の障害	1, 2	鈴木
2	4	17	歯の欠損様式と義歯の分類	分類の必要性和臨床的意義、さまざまな分類法	3	〃
3	4	24	部分床義歯の構成要素	部分床義歯の構成要素	4	〃
4	5	8	部分床義歯に加わる力	義歯に加わる力 支台歯と顎堤の負担能力	5	〃
5	5	15	支持 1	支持に関与する構成要素、レストの種類と機能	5	〃

6	5	22	支持 2	義歯床による支持	6	鈴木
7	5	29	把持	把持に関与する構成要素、誘導面と隣接面板	6	〃
8	6	5	維持 1	部分床義歯の維持、支台装置の一般的所要条件、支台装置の種類、特徴	7, 16	〃
9	6	12	維持 2	クラスプ、アタッチメント	7	〃
10	6	19	連結子と義歯床 1	連結装置の役割と所要条件、大連結子の種類、特徴	7, 8, 16	〃
11	6	29	連結子と義歯床 2	義歯床の役割と要件	9	〃
12	7	3	部分床義歯の装着後の変化	部分床義歯装着後の生体の変化と義歯の変化	9, 16	渡邊
13	7	10	前処置	広義の前処置と狭義の前処置	10	鈴木
14	7	17	印象採得	印象法の種類と特徴、印象材料、印象用トレー	10, 16	〃
15	7	24	前期の総括	前期のまとめと総括	1-16	〃

2 学年後期・15 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
16	10	5	義歯の設計 1	義歯設計の原則	11	鈴木
17	10	19	義歯の設計 2	サベイングの目的と技法、支台歯選択と鉤間線	12	〃
18	10	26	咬合採得	歯列対向関係の違いと咬合採得の術式、咬合床の種類	13	織田
19	11	2	フレームワーク 1	フレームワークの構造	14	鈴木
20	11	9	フレームワーク 2	フレームワークの製作法	15	〃
21	11	16	有床義歯特論	部分床義歯の臨床症例	10, 20	大泉
22	11	30	人工歯排列とろう義歯	人工歯の選択と排列、部分床義歯に付与する咬合、歯肉形成	16	鈴木
23	12	7	義歯の重合・研磨	埋没、流ろう、重合	17	〃
24	12	14	義歯装着後の変化と対応	義歯装着後の口腔内の変化、人工歯の摩耗と対処法、義歯床の破損と対処法、リラインの適応と技法	18	〃

25, 26	1	18	様々な部分床義歯 の治療法とその特 徴 1	コーヌスクローネ義歯	19	若林
27, 28	1	25	様々な部分床義歯 の治療法とその特 徴 2	アタッチメント義歯、ノンクラスプデ ンチャー	19	笛木
29, 30	2	8	総括	部分床義歯補綴学を総括する	1-19	鈴木

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総合的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総合的評価に加味する。
- ・有床義歯工学(1)は前期に、有床義歯工学(2)は前期と後期にそれぞれ別に試験を行い、全ての試験に合格しなければならない。
- ・有床義歯工学の最終判定は有床義歯工学(1)、有床義歯工学(2)の成績を合わせて行う。

教科書

- ・「無歯顎補綴治療学 第2版」細井紀雄ほか編 医歯薬出版
- ・「スタンダード部分床義歯補綴学 第2版」藍 稔 編 学建書院

参考図書

- ・「新歯科技工士教本 有床義歯技工学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「バウチャー無歯顎患者の補綴治療 原著第12版」田中久敏ほか監訳 医歯薬出版
- ・「コンプリートデンチャーの理論と臨床」早川 巖 クインテッセンス出版
- ・「よい義歯 だめな義歯」鈴木哲也 クインテッセンス出版
- ・「パーシャルデンチャーアトラス」大山喬史 編著 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

鈴木哲也 教授 随時 suzuki.peoe@tmd.ac.jp

科目名	有床義歯工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	有床義歯工学実習(1) 2 学年前期・130 時間・必修 有床義歯工学実習(2) 2 学年前期・20 時間・必修 2 学年後期・165 時間・必修 有床義歯工学実習(3) 3 学年前期・45 時間・必修 } 8 単位
科目責任者	鈴木哲也
授業担当者	鈴木哲也、安江透、池田正臣、岡安晴生、富川紘一、岩崎直彦、大泉 誠・得本佳代・堀部敬教・西尾政浩(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第 1 実習室

有床義歯工学実習の構成ユニット

- 2 年次 : 有床義歯工学実習(1)(全部床義歯工学)
 有床義歯工学実習(2)(部分床義歯工学)
 3 年次 : 有床義歯工学実習(3)(部分床義歯工学)

有床義歯工学実習(1)

学習目標(GIO)

無歯顎の特徴を理解し、その損なわれた機能と審美を回復するために用いる全部床義歯の製作方法を理解し、技工室での製作を実施する。

到達目標(SBOs)

1. スタディモデルからランドマークを読み取る。
2. リリーフとブロックアウトの意義を理解し実施する。
3. 印象採得の手順を説明し、そのための個人トレーを製作する。
4. ハンドピース・エンジンを使って切削作業を実施する。
5. 咬合採得の手順を説明し、咬合床を製作する。
6. 丁寧に正確なワックス操作を行う。
7. 模型を適切に咬合器に装着する。
8. 適切な人工歯排列をする。
9. 自然感と清掃性を考慮した歯肉形成を施すことができる。
10. 全部床義歯における咬合理論を理解し、適切な咬合を与えることができる。
11. ろう義歯の埋没、流ろう、レジン填入および重合を適切に行うことができる。

12. 選択削合・自動削合を行う。

13. 義歯の形態修正、研磨を行う。

授業計画 2 学年前期・130 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-5	4	10	全部床義歯製作の概説、個人トレー製作 1	全部床義歯実習の概要説明、個人トレー外形線記入、ブロックアウト、リリース	1, 2	鈴木、安江、池田、岡安、富川、堀部、西尾
6-10	4	12	個人トレー製作 2	オストロン圧接	3	〃
11-15	4	17	個人トレー製作 3	トリミング、柄・フィンガーレスト付与	3, 4	〃
16-20	4	19	個人トレー製作 4	コンパウンド付与、完成	3	〃
21-25	4	24	咬合床製作 1	外形線記入、ブロックアウト、リリース	5	〃
26-30	4	26	咬合床製作 2	常温重合レジン圧接	5	〃
31-35	5	8	咬合床製作 3	基礎床トリミング	4, 5	〃
36-40	5	10	咬合床製作 4	ろう堤形成、完成	5, 6	〃
41-45	5	15	咬合器装着	スプリットキャストの形成、咬合器装着	7	〃
46-50	5	17	前歯部人工歯排列 1	前歯部人工歯排列(上顎)	8	〃
51-55	5	22	前歯部人工歯排列 2	前歯部人工歯排列(下顎)	8	〃
56-60	5	24	臼歯部人工歯排列 1	臼歯部人工歯排列(下顎 1)	8, 9	〃
61-65	5	29	臼歯部人工歯排列 2	臼歯部人工歯排列(下顎 2)	8, 10	〃
66-70	5	31	臼歯部人工歯排列 3	臼歯部人工歯排列(上顎)	8, 10	〃
71-75	6	5	歯肉形成 1	歯肉形成(上顎)	9	〃
76-80	6	7	歯肉形成 2	歯肉形成(下顎)	9	〃
81-85	6	12	ろう義歯埋没	一次埋没、二次埋没、三次埋没	11	鈴木、安江、池田、岡安、富川、大泉、得本、堀部、西尾
86-90	6	14	レジン填入・重合 1	流ろう・填入	11	〃
91-95	6	19	レジン填入・重合 2	重合	11	〃

96-100	6	21	模型の割り出し	模型の割り出し	11	鈴木、安江、 池田、岡安、 富川、堀部、 西尾
101-105	6	26	咬合器再装着	咬合器再装着	7	鈴木、安江、 池田、岡安、 富川、堀部、 西尾
106-110	6	28	削合 1	選択削合	12	〃
111-115	7	3	削合 2	自動削合、咬合面修正	12	〃
116-120	7	5	形態修正・研磨	形態修正、荒研磨	13	〃
121-125	7	10	形態修正・研磨	レーズ研磨、艶出し完成	13	〃
126-130	7	12	総括	全部床義歯製作過程を総括	1-13	鈴木

有床義歯工学実習(2)

学習目標(GIO)

部分的歯牙欠損患者の口腔機能回復のための理論、および各種構成要素に用いる材料の諸性質を理解し、個々の臨床ケースに対応できる部分床義歯製作のための技法および技術を身につける。

到達目標(SBOs)

1. 義歯の着脱方向を正確に設定して、的確にブロックアウトする。
2. 常温重合レジンの理工学的性質を理解して、的確に圧接する。
3. 歯科用エンジンおよびレーズを使用して、常温重合レジンを変形させることなく加工する。
4. 個人トレーが具備すべき形態および口腔内操作を考慮して、外形を形成する。
5. パラフィンワックスの理工学的特性を理解し、最適ならう堤を形成する。
6. スプリットキャストの意味を理解し、顎位を保持して正確に咬合器装着する。
7. 支台歯および粘膜を含む口腔内状況を考慮し、最適な支台装置の設計をする
8. 外形線に沿って正確なワイヤークラスプの屈曲をする。
9. 直接法用光重合レジンパターンおよび鋳造用即時重合レジンで精密なパターンを採得する。
10. リン酸塩系埋没材の理工学的性質を理解し、気泡を混入しない埋没をする。
11. リン酸塩系埋没材の理工学的性質を理解し、的確な温度管理でリング焼却する。
12. 高周波鋳造機の特性を理解し、欠陥のない鋳造体を製作する。
13. 作業用模型への適合方法を理解し、的確なトリミングおよび研磨をする。
14. 正確な位置で仮着し、ろう着用埋没材の理工学的特性を理解して正確に埋没する。
15. ろう着用埋没材の理工学的特性を理解して、的確に加熱する。
16. ろう着の基本原則を理解し、的確な炎管理でろう着する。

17. 副印象用材料の理工学的特性および副印象システムの特徴を理解し、精密に印象採得する
18. 副印象システムおよび耐火埋没材の理工学的特徴を理解し、精密な副模型を製作する。
19. クラスプ用ワックスパターンを用いて、正確なワックスアップをする。
20. 使用金属の理工学的特性を理解して、それぞれの支台装置に合った維持力を調整する。
21. 審美性に配慮して人工歯排列する。
22. 機能性に配慮して人工歯排列する。
23. 機能性および生体親和性に配慮して歯肉形成する。
24. パラフィンワックスを的確に操作し、滑沢な表面に仕上げる。
25. 支台装置の位置および人工歯排列状態を考慮して、的確なフラスコ埋没を立案し作業する。
26. 一次埋没した石膏表面を滑沢にし、強固な分離皮膜を生成する。
27. 気泡を入れることなく埋没する。
28. 埋没したフラスコの状態を考慮して、的確な温度管理で流ろうする。
29. 必要な範囲に十分な分離材を的確に塗布する。
30. 加熱重合レジンの理工学的特性を理解して、適正な混液比で予備重合する。
31. 加熱重合レジン of 理工学的特性を理解して、予備重合したレジンに適正な圧力で填入する。
32. 適正な温度管理で加熱重合する。
33. 重合体および作業用模型に必要な以上の外力を加えることなく、掘り出しする。
34. 早期接触部位を的確に判断して削合する。
35. 義歯を変形させることなく、作業用模型から取り外す。
36. 外形線に沿って的確に形態修正する。
37. 形態修正による切削傷を効率よく荒研磨する。
38. レーズ研磨の仕組みを理解し、効率よく艶出し研磨する。
39. バフを使用して鏡面研磨する。
40. ゴシックアーチトレーサーの使用目的を理解し、描記板および描記針を的確に設置する。

授業計画

2 学年前期 ・ 20 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
1-5	7	17	部分床義歯製作の概説	部分床義歯実習の概要説明、個人トレー外形線記入、ブロックアウト、リリース	1	安江、富川
6-10	7	19	個人トレー製作	常温重合レジン圧接	2	〃
11-15	7	24	〃	常温重合レジン圧接、トリミング	2, 3	〃
16-20	7	26	〃	柄・フィンガーレスト付与、コンパウンド操作	4	〃

2 学年後期 ・ 165 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	授業担当者
21-26	10	2	咬合床製作	外形線記入、ブロックアウト、リリース、 常温重合レジン圧接	1, 2	安江、岩崎、 富川
27-31	10	4	〃	基礎床トリミング、ろう堤形成、咬合器 装着	3, 5, 6	安江、富川、 堀部
32-37	10	9	支台装置製作 (上顎)	サベイング、支台装置設計、ブロックア ウト、ワイヤークラスプ屈曲	1, 7, 8	安江、岩崎、 富川
38-42	10	11	〃	ワイヤークラスプ屈曲	8	安江、富川、 堀部
43-48	10	16	〃	鑄造レストパターン採得、埋没	9, 10	安江、岩崎、 富川
49-53	10	18	〃	鑄造、研磨、ろう着用埋没	11, 12, 13, 14	安江、富川、 堀部
54-59	10	23	〃	ろう着、研磨	13, 15, 16	安江、岩崎、 富川
60-64	10	25	予備日	予備日		安江、富川
65-70	10	30	支台装置製作 (下顎)	サベイング、支台装置設計、ブロックア ウト、副印象、耐火模型製作	1, 7, 17, 18	安江、岩崎、 富川
71-75	11	1	〃	副印象、耐火模型製作	17, 18	安江、富川、 堀部
76-81	11	6	〃	支台装置ワックスアップ	19	安江、岩崎、 富川
82-86	11	8	〃	埋没	10	安江、富川、 堀部
87-92	11	13	〃	鑄造	11, 12	安江、岩崎、 富川
93-97	11	15	〃	形態修正、適合、維持力調整	13, 20	安江、富川、 堀部
98-103	11	27	〃	研磨	13	安江、岩崎、 富川
104-108	11	29	予備日	予備日		安江、富川
109-114	12	4	人工歯排列	前歯部人工歯排列	21, 22	安江、岩崎、 富川
115-117	12	6	〃	臼歯部人工歯排列	22	安江、富川、 堀部

118-123	12	11	歯肉形成	歯肉形成	23, 24	安江、岩崎、 富川
124-130	12	13	埋没・重合	一次埋没	25, 26	安江、富川、 堀部
131-136	12	18	〃	二次・三次埋没、流ろう、填入	27, 28, 29, 30	安江、岩崎、 富川
137-141	12	20	〃	填入、重合	30, 31, 32	安江、富川、 堀部
142-147	1	8	咬合器再装着	掘り出し、咬合器再装着	33	安江、岩崎、 富川
148-152	1	10	削合	削合	34	安江、富川、 堀部
153-158	1	15	研磨	形態修正、荒研磨	35, 36, 37	安江、岩崎、 富川
159-163	1	17	〃	レーズ研磨、艶出し完成	38, 39	安江、富川、 堀部
164-169	1	22	予備日	予備日		安江、岩崎、 富川
170-174	1	24	ゴシックアーチト レーサー	模型準備、ブロックアウト、リリース、常 温重合レジン圧接	1, 2	安江、富川、 堀部
175-180	1	29	〃	基礎床トリミング、下顎ろう堤製作	3, 5	安江、岩崎、 富川
181-185	1	31	〃	描記板・描記針装着、完成	40	安江、富川、 堀部

評価方法

- ・有床義歯工学実習は、2 年前期に有床義歯工学実習(1)を、2 年後期に有床義歯工学実習(2)を、3 年前期に有床義歯工学実習(3)をそれぞれ別の課題を行い、全ての課題に合格しなければならない。
- ・出席状況、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・有床義歯工学実習の最終判定は有床義歯工学実習(1)、有床義歯工学実習(2)、有床義歯工学実習(3)の成績を合わせて行う。

参考図書等

- ・「新歯科技工士教本 有床義歯技工学」全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版
- ・「コンプリートデンチャーテクニック(第 6 版)」細井紀雄 ほか編 医歯薬出版
- ・「パーシャルデンチャーテクニック(第 4 版)」野首孝祠 ほか編 医歯薬出版

- ・「パーシャルデンチャーアトラス」 大山喬史 編著 医歯薬出版
- ・「現代のパーシャルデンチャー -欠損補綴の臨床指針-」 野首孝祠、五十嵐順正 クインテッセンス出版

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

鈴木哲也 教授 随時 suzuki.peoe@tmd.ac.jp

安江 透 講師 随時 yasue.sdt@tmd.ac.jp

科目名	保存修復工学
授業の形態	講義
開講時期・単位・時間数	2 学年前期・15 時間・必修1 単位
科目・ユニット責任者	池田正臣
授業担当者	二階堂徹(う蝕制御学分野)、和泉雄一(歯周病学分野)、池田正臣
主な授業場所	口腔保健学科口腔保健工学専攻 第4講義室

学習目標(GIO)

う蝕と歯の実質欠損病態とその治療法および歯周病の原因、病態、治療法の概要について理解する。

到達目標(SBOs)

1. 保存修復の全体像を説明する。
2. う蝕の診断と処置が技工操作に与える影響について説明する。
3. 接着材料と技術について説明する。
4. 審美修復材料について説明する。
5. 修復物の予後と2次う蝕の予防について説明する。
6. 歯周病の全体像を説明する。
7. 歯周病の診断と処置と歯科技工物との関係について説明する。

授業計画 2 学年前期・15 時間・必修 1 単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	4	11	保存修復概論	硬組織疾患の診断と処置、窩洞の名称と分類、窩洞形態、不潔域、自浄作用	1	二階堂
2	4	18	〃	〃	1	〃
3	4	25	う蝕	う蝕の診断と処置、切削装置	2	〃
4	5	2	〃	〃	2	〃
5	5	9	接着性コンポジット レジン修復	材料、接着の基礎(歯質との接着)、臨床術式	3	二階堂
6	5	16	〃	〃	3	〃
7	5	23	〃	〃	3	〃
8	5	30	審美性間接修復	材料、接着の基礎、レジンインレー、ポーセレンインレー、CAD/CAM、ラミネートベニア	4	二階堂、池田
9	6	6	〃	〃	4	二階堂、池田

10	6	13	メンテナンス	う蝕予防、修復物の予後	5	二階堂、池田
11	6	20	〃	〃	〃	〃
12,13	7	12	歯周病学概論	歯周病の病因と病態	6	和泉
14,15	7	19	歯周病	歯周病の治療法	7	〃

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総括的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総括的評価に加味する。

参考図書等

- ・新歯科技工士教本「歯冠修復技工学」 全国歯科技工士教育協議会編 医歯薬出版
- ・接着歯学 日本接着歯学会編 医歯薬出版
- ・接着ここが知りたい 歯科技工士編 日本接着歯学会編 (財)口腔保健協会

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合は、各自予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

二階堂 徹 講師 月、火、金 16:30-18:30 nikaido.ope@tmd.ac.jp

和泉 雄一 教授 メールにて面談の日程を調整すること y-izumi.peri@tmd.ac.jp

科目名	歯冠修復工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	歯冠修復工学(1) 2 学年後期・30 時間・必修 歯冠修復工学(2) 3 学年前期・30 時間・必修 } 4 単位
科目責任者	岡安晴生
授業担当者	岡田大蔵(摂食機能保存学分野)、池田英治(歯髄生物学分野)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第4講義室

歯冠修復工学の構成ユニット

2 年次: 歯冠修復工学(1)

3 年次: 歯冠修復工学(2)

歯冠修復工学(1)

学習目標(GIO)

各種の歯冠修復及び架工義歯に関する知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 歯冠修復の適応および意義を理解する。
2. う蝕治療の流れを理解する。
3. 歯冠修復物の特徴を理解する。
4. 築造の目的を説明する。
5. 仮封冠の目的を説明する。
6. 直接法と比較した間接法の特徴を理解する。
7. 歯冠修復に用いられる印象材について説明する。
8. 咬合採得の意義について説明する。
9. 作業用模型の種類と取り扱い方を理解する。
10. ろう型採得の方法について理解する。
11. 埋没、および鑄造の流れを説明する。
12. 研磨の手法を理解する。
13. 試適の手順を理解する。
14. 合着に用いるセメントについて理解する
15. ブリッジの特徴とポンティック形態を説明する。

授業計画 2 学年後期・30 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1, 2	10	3	歯冠修復工学総論	歯冠修復物の種類と目的	1, 2, 3	岡田
3, 4	10	10	全部鑄造冠	全部鑄造冠の特徴、支台形態	3	〃
5, 6	10	17	歯内療法学概論 1	歯内療法学における病因、病態	2	池田
7, 8	10	24	歯内療法学概論 2	歯内療法学における基本的な治療	2	〃
9, 10	10	31	築造 仮封冠	築造の目的 仮封冠の目的	4, 5	岡田
11, 12	11	7	間接法 印象法	間接法の寸法精度、補償理論 印象に用いられる材料、必要強度、 特徴	6, 7	〃
13, 14	11	28	咬合採得 作業用模型	咬合採得に用いる材料と方法、注意 点 各種模型の得失	8, 9	〃
15, 16	12	5	ろう型採得	内面の適合精度、 外面形態:咬合面、隣接面、頬舌面	10	〃
17, 18	12	12	埋没 鑄造	スプルー線の植立、埋没操作 埋没材の変化、ワックスの焼却 鑄造用合金、鑄造体の熱処理	11	〃
19, 20	12	19	研磨	研磨の目的、研磨器具の種類と特徴	12	〃
21, 22	1	9	試適 合着	接触点の調整、咬合調整 セメントの種類、浮き上がり防止策	13, 14	〃
23, 24	1	16	前装鑄造冠	前装冠の特徴、支台形態	3	〃
25, 26	1	23	ポストクラウン 陶材ジャケット冠	ポストクラウンの特徴 陶材ジャケット冠の特徴、支台形態	3	〃
27, 28	1	30	部分被覆冠	部分被覆冠の特徴、支台形態	3	〃
29, 30	2	6	ブリッジ	ブリッジの構造と分類、特徴 ポンティックの形態、適応	3, 15	〃

評価方法

- ・提出レポート、期末の客観試験、論述試験で総合的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総合的評価に加味する。
- ・歯冠修復工学(1)は2年後期に、歯冠修復工学(2)は3年前期にそれぞれ別に試験を行い、全ての試験に合格しなければならない。
- ・歯冠修復工学の最終判定は歯冠修復工学(1)、歯冠修復工学(2)の成績を合わせて行う。

教科書

「クラウンブリッジ補綴学 第4版」石橋寛二ほか 編著 医歯薬出版

参考図書等

- ・「歯冠修復技工学」全国歯科技工士教育協議会編集 医歯薬出版
- ・「保存修復学 21」岩久正明、河野篤、千田彰、田上順二監修 末永書店

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

岡安晴生 講師 月、水、金 16:00-18:00 okayasu.sdt@tmd.ac.jp

科目名	歯冠修復工学実習
授業形態	実習
開講時期・時間数・単位	歯冠修復工学実習(1) 2 学年後期・210 時間・必修 歯冠修復工学実習(2) 3 学年後期・150 時間・必修 } 8 単位
科目責任者	岡安晴生
授業担当者	鈴木哲也、岡安晴生、池田正臣、安江透、富川紘一、西尾政浩(非常勤講師)
主な授業場所	口腔保健工学専攻第1実習室

歯冠修復工学実習の構成ユニット

2 年次: 歯冠修復工学実習(1)

3 年次: 歯冠修復工学実習(2)

歯冠修復工学実習(1)

学習目標(GIO)

各種の歯冠修復及び架工義歯に関する知識及び技術について修得する。

到達目標(SBOs)

1. 歯冠修復における治療の流れを理解し、技工作業を行う。
2. 技工器具を正しく使用する。
3. 模型の扱いを理解し、正確な操作を行う。
4. 最終補綴物の特徴を理解したうえで、メタルコアを製作する。
5. 各種鋳造操作を行う。
6. 各種レジンの扱いを修得する。
7. 個歯トレーの利点を説明する。
8. 暫間被覆冠の特徴を説明する。
9. 歯列に調和したクラウンを製作する。
10. 適合精度の高いワックスパターンを製作する。
11. 内面辺縁形態、隣接面接触、咬合接触について適切な処理を行う。
12. 鏡面研磨を行う。
13. メタルインレーの特徴を理解する。
14. レジン前装冠の窓開けを行う。
15. 前装用レジンを操作する。
16. シェードテイキングについて説明する。

授業計画 2 学年後期・210 時間・必修

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1-4	10	1	実習の進め方	実習の進め方、実習室の使い方、技工器具・器機の使い方	1, 2	岡安、池田 安江、富川 西尾
5-9	10	3	模型製作練習 1	印象への石膏注入、模型トリミング、ダウエルピン植立、二次石膏、三次石膏	3	〃
10-14	10	5	模型製作練習 2	模型分割、歯型のマージン出し	3	〃
15-19	10	10	模型製作	印象への石膏注入、模型トリミング、ダウエルピン植立、二次石膏、三次石膏	3	〃
20-23	10	15	咬合器装着	咬合器装着、模型分割、歯型のマージン出し	3	〃
24-28	10	17	メタルコアのワックスアップ	ワックスアップ	4	〃
29-33	10	19	メタルコアの埋没	ワックスアップ、スプルーイング、埋没	4, 5	〃
34-37	10	22	メタルコアの鋳造	鋳造	4, 5	〃
38-42	10	24	メタルコアの研磨	形態修正、研磨、完成	4	〃
43-47	10	26	予備日	予備日	4	〃
48-51	10	29	個歯トレイ製作	個歯トレイ製作	6, 7	〃
52-56	10	31	暫間被覆冠の歯冠形態回復	暫間被覆冠製作 歯冠形態回復	6, 8	〃
57-61	11	2	暫間被覆冠の研磨	暫間被覆冠製作 形態修正、接触点調整、咬合調整、研磨、完成	6, 8	〃
62-65	11	5	予備日	予備日	6, 8	〃
66-70	11	7	クラウンの模型製作	模型製作、咬合器装着	3, 9	〃
71-75	11	9	クラウンワックスアップ	ワックスアップ 歯冠形態完成	9, 10	〃
76-79	11	12	〃	ワックスアップ マージンのしめ直し	9, 10	〃

80-84	11	16	クラウンの埋没	スプルーイング、埋没	5, 9	岡安、池田 安江、富川 西尾
85-88	11	26	クラウンの鋳造	鋳造	5, 9	〃
89-93	11	28	〃	鋳造	5, 9	〃
94-98	11	30	クラウンの調整	内面調整	9, 11	〃
99-102	12	3	〃	接触点、咬合調整	9, 11	〃
103-107	12	5	クラウンの研磨	研磨、完成	9, 12	〃
108-112	12	7	予備日	予備日	9, 12	〃
113-116	12	10	メタルインレーのワックスアップ	ワックスアップ 概形製作	10, 13	〃
117-121	12	12	〃	〃	10, 13	〃
122-126	12	14	〃	ワックスアップ 歯冠形態完成	10, 13	〃
127-130	12	17	メタルインレーの埋没	スプルーイング、埋没	3, 5, 10, 13	〃
131-135	12	19	メタルインレーの鋳造	鋳造	3, 5, 10, 13	〃
136-139	1	7	メタルインレーの調整	適合確認、内面調整、接触点調整	11, 13	〃
140-144	1	9	メタルインレーの研磨	咬合調整、研磨、完成	11, 12, 13	〃
145-149	1	11	予備日	予備日	13	〃
150-154	1	16	レジン前装冠のワックスアップ	ワックスアップ 歯冠形態回復	10	〃
155-159	1	18	〃	〃	10	〃
160-163	1	21	レジン前装冠の窓開け	窓開け	14	〃
164-168	1	23	レジン前装冠のワックスパターン完成	リテンションビーズ付与	14	〃
169-173	1	25	レジン前装冠の埋没	スプルーイング、埋没	5, 10	〃
174-177	1	28	レジン前装冠の鋳造	鋳造	5	〃
178-182	1	30	レジン前装冠の調整	適合確認、内面調整、接触点調整、咬合調整	11	〃

183-187	2	1	レジン前装冠の荒研磨	荒研磨	11	岡安、池田 安江、富川 西尾
188-191	2	4	前装レジン築盛	デンティン築盛	15	〃
192-195	2	5	〃	エナメル築盛	15	〃
196-200	2	6	レジン前装冠の形態修正	前装レジン築盛、形態修正	15	〃
201-205	2	7	レジン前装冠の最終研磨	形態修正、研磨、完成	11, 12, 15, 16	〃
206-210	2	8	予備日	予備日	11, 12, 15, 16	〃

評価方法

- ・歯冠修復工学実習は、2 年後期に歯冠修復工学実習(1)、3 年前期に歯冠修復工学実習(2)で、それぞれ別の課題を行い、全ての課題に合格しなければならない。
- ・出席状況、実習態度を総括的評価に加味する。
- ・歯冠修復工学実習の最終判定は、歯冠修復工学実習(1)、歯冠修復工学実習(2)の成績を合わせて行う。

参考図書等

- ・「歯冠修復技工学」 全国歯科技工士教育協議会編集 医歯薬出版
- ・「保存修復学 21」岩久正明、河野篤、千田彰、田上順二監修 末永書店
- ・「クラウンブリッジ補綴学 第4版」石橋寛二、他 編著 医歯薬出版

留意事項

事前に資料の配付、e-learning へのアップロード等があった場合は、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

岡安晴生 講師 月、水、金 16:00-18:00 okayasu.sdt@tmd.ac.jp

科目名	プロセスデバイス工学
授業形態	講義
開講時期・時間数・単位	2 学年後期・30 時間・選択 2 単位
科目責任者	高橋英和
授業担当者	高橋英和、大木明子、岩崎直彦、高久田和夫(生体材料工学研究所システム研究部門バイオデザイン分野)、中口悦史(教養部)、堀田康弘(昭和大学)
主な授業場所	口腔保健学科口腔保健工学専攻 第4講義室、第4実習室、マシニング・センター、CAD/CAM ショールームほか

学習目標(GIO)

機械加工の原理を理解し、CAD/CAM/CAE の基礎的な知識を修得する。

到達目標(SBOs)

1. 機械加工の概念を説明する。
2. 3次元デジタルデータの収集方法ならびにその構造を説明する(計測機の種類や計測方法、その問題点について)。
3. 3次元デジタルデータの抽出、設計、加工の仕組みを説明する。
4. マシニング・センターについて説明する。
5. 3次元造形法について説明する。
6. 数値解析法の概要と有限要素法について説明する。

授業計画 2 学年後期・30 時間・選択 2 単位

回	月	日	授業題目	授業内容	SBOs	担当教員
1	10	4	オリエンテーション	プロセスデバイス概論	1-6	大木
2	10	4	CAD/CAM/CAE 総論	CAD/CAM/CAE とは	2, 3	〃
3, 4	10	11	機械加工総論	機械加工総論	1	高久田
5, 6	10	18	切削加工の応用	切削加工の応用	1	高橋、岩崎
7, 8	10	25	切削加工実習	切削加工実習	1	〃
9, 10	11	1	〃	〃	1	〃
11, 12	11	8	スキャニング	スキャニング法(接触・非接触)	2	堀田
13, 14	11	15	デジタルデータの抽	3次元デジタルデータの抽出・設計・	3	〃

			出・設計・加工	加工		
15, 16	11	29	データの転送 マシニング・センター	加工データの転送 マシニング・センター	3, 4	堀田
17-20*	12	6	企業見学1	マシニング・センター(森精機)見学	4	高橋、大木
21, 22	12	20	3次元造形法	3次元造形法の種類、材料と方法、 製造業・医療における応用	5	大木
23, 24*	1	10	企業見学2	CAD/CAM ショールーム(豊通マシ ナリー)見学	5	高橋、大木
25, 26	1	17	数値解析法概論	数値解析法および有限要素法概論	6	中口
27, 28	1	24	数値解析法演習	有限要素法による解析演習	6	〃
29, 30	1	31	〃	〃	6	〃

*: 12月6日、1月10日は有床義歯工学実習の後、企業見学となります。注意してください。

評価方法

- ・提出レポート、製作作品、筆記試験で総合的評価を行う。
- ・出席状況、授業態度を総合的評価に加味する。

教科書

「図解メカトロニクス入門シリーズ CAD/CAM/CAE 入門」改訂2版 雨宮好文監修 オーム社

参考図書等

- ・「3次元 CAD 実践活用法」日本設計工学会編 コロナ社
- ・「JSME テキストシリーズ 材料力学」日本機械学会編 丸善 2007

留意事項

事前に資料の配布、e-learning へのアップロード等があった場合には、予習して授業に臨むこと。

担当教員のオフィスアワー

高橋 英和 教授 月、火 16:00-18:00 takahashi.bmoe@tmd.ac.jp

大木明子 准教授 火、水、金 16:00-18:00 moki.mfoe@tmd.ac.jp

中口悦史 准教授 木(11/29~1/31のみ) 12:00~13:00、16:00~17:00 nakaguti.las@tmd.ac.jp